930043

電信課長

大臣 次官

通商 人事 會計 文書 政務 參政官 副參政官

第七八五号

北京発 本省着 大二年九月二日後二、一〇、九、四二、

石井外務大臣 林公使

二七
八一七
(明)

貴電第三三五号、第三三六号御電訓ノ次第ハ九月二日午前九時本使親シク外交總長ニ面會シ二時間以上ニ亘リ善処ヲ意シ我廟議ノ時ニ日支両国間ノ大義ニ帝ヲ堪キ旨ヲ和平ニ事件ノ解決スベキノ趣旨ノ反覆敷衍シテ説明スルト同時ニ解決條件ニ関

秘上伏希

シテモ詳細先方ニ於テ納得ノ行ク様一々説明ヲ要ス尚本件ノ交渉中不穏空ナル論争ヲ事トシ徒ラニ解決ヲ遷延スルカ如キコトアラハ独リ両国ニ対スル大局ニ顧ミシ事件ヲ和平ニ解決セントスル帝国政府ノ誠意ヲ疑ハシムルモノナルヤナラズ（續ク）

5-0111
0425
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

101

電信課長 左

大臣 石井

次官 古

政務 小村

通商

人事

會計 (郵便たつ)

文書

參政官

副參政官

八一七九 暗

北京發大正五年九月二日后二、二〇
本省着 〃 一〇、三〇

石井外務大臣 林公使

第七八五號ノ二

事件ヲ之ヲ紛雜ナラシメ益〻我輿論ヲ沸騰セシメ其ノ結果ノ甚タ憂慮スヘキニ至ル旨ヲ述ヘ更ニ注意ヲ置ケリ右ニ對シ陳德長ハ兩國國交ノ大局ニ顧念シ事件ヲ平和ニ解決セラレントスル帝國政府ノ誠意ニ對シテハ特ニ感謝ノ意ヲ表スル旨ヲ再三繰返シタル後只今美ハリヌル日本側報告ハ飽テ之ヲ疑フ次第

MT 514-44

930044

ニハアラサルモ奉天張督軍等ヨリ接受シタル報告ト多少相違スル点モアリ旁〻支那政府部内ニ於テ協議ノ際ニ於テ全然日本側ノ報告ノミヲ基礎トスル譯ニモ參ラサルニ就テハ過日此事件ノ為鄭家屯ヘ特派セル王鴻年ノ帰京ヲ俟チ其ノ報告ヲ參酌シ速カニ評議ヲ遂ケ何分ノ回答ヲ為スベキニ付先以テ夫迄ハ暫時猶豫アリタシト述ベ更ニ王鴻年ニ對シテハ速カニ調査ヲ結了シ帰京スベキ趣ヲ附言セリ

(續ク)

MT 514-44

5-0111

0426

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930045

電信課長 [illegible]

大臣 [illegible]

次官 [illegible]

政務局 [illegible]

通商 [illegible]

人事 [illegible]

會計 [illegible]

文書 [illegible]

參政官 [illegible]

副參政官 [illegible]

北京發
本省着 大正五年九月二日後二時四〇分
一日二〇八

第七八五号ノ三

本使ハ支那側ノ報告ハ事態ノ略キ明瞭ナル
今日之ヲ待ツノ必要ナキコトヲ說示シ斯クテ
ハ徒ラニ事件ノ解決ヲ糸紆セシムルニ過キ
サル旨ヲ切言シ其反省ヲ促シタルモ陳氏同發
會議ノ席上ニ於テ本件ノ評議ヲ爲ス者ハリ
少美那側ノ基礎報告ナキコトハ到底出來得

石井外務大臣

林公使

MT 514-44 746

ヘカラサルコトナリトシ切リニ王鴻年ノ帰京迄
猶豫ノ希望ニテ之ニテサルニ付其言ノ所一應
尤ト認メタルニ付本使ハ之ニ同意ヲ與ヘ王鴻
年ノ遠ク帰京方電訓ノ極申入ニ引取ル
本件ハ何レ同發會議ノ評議ニ上ルヘキヲ以テ
一應發禮端ニ而會ノ上帝國政府ノ誠意ノ
アル所ト條件ノ内容ニ付詳解ナキ様説明
ヲ與ヘ置クコト得策ナルヘシト認メタルニ付
段々ハ本日午後五時會見ノコトニ取計置タリ
奉天ヘ轉電セリ

MT 514-44 747

5-0111

0427

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

電信課長 左

大臣 石井 次官 内田 政務局長 岡部 通商 人事 会計 文書 参政官 副参政官

北京 発 大正五年九月二日 着 一〇、〇〇

石井外務大臣 秘 公 機

八一七五 暗

第七八六号

貴電第七八五号ノ通リ鄭家屯事件解決條件ヲ既ニ正式ニ支那政府ニ提出セル以上早晩支那側ヨリ其ノ内容ノ外間ニ漏ルベキハ従来ノ例ニ徴シ疑ナキヲ以テ此際事ハ[illegible]ヨリ進ンテ英国政府ヘハ勿論タイムス等ノ重ナル新聞社ニ誤解ナキ様一應ノ説明ヲ與フルノ措置ヲ執リ置クヲ九ヨト得策ナラ

MT 514-44 748

ストト思考ス依テ右ニ御異存ナキニ於テハ當地ニ於テモ英公使ハ勿論タイムス駐在ノ特派員乃至我特派員ノ二三ニ大體ノ内容ヲ内示シ至急何分ノ御電示ヲ請フ

(奉天中継九月二日午後五時五分)

MT 514-44 749

930046

5-0111

0428

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

電送第三二〇八號

五年九月二日前後口時四分發

大臣閲了

在支

林大使

石井大使

第三二〇六

貴電第七八一号ニ関シ支那国内ニ於ケル軍隊ノ移動ニ付テハ

支那側ニ於テ軍隊ノ移動ヲ行ハサリシ旨

御了解相成度ナレ

外務省

MT 514-44 750

5-0111

0429

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930047

電信翻譯

第一課

石井大臣

電送第三三一〇号 三三一五号 號

五年九月二日午後〇時廿分發

台湾総督

左上海総領事 宛一四八号

左香港総領事代理

左厦門大田領事

左雲南 張領事

右南京領事

外務省

左米

左伊

大使館宛八七号

事件ニ関シ電報ノ通

[illegible]

[illegible]

5-0111

0430

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

電信課

在

外務省

宛 東京 蔡 海 總 督 石井大臣

電送第三三三一號

大正 年 九月 二日 午後 七時 〇分 發

鄭家屯ヲ出発法文海ニ関ス

八月日附貴官宛強電ハ貴官

内密ノ御含迄ニテ右様密ト

シテ取扱ハレタシ

MT 514-44 753

5-0111

0431

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930048

第一課

大正三年春三月支那ニ使シタル書記官ノ未だ帰朝セザル間ニ日本人カ日本軍憲ヲ

[redacted]

件ニ関シ日本人カ兵器ヲ携帯セサル故、軍ニ治外法権ヲ認メラレタル場合ニ於テ自由主義ニ依ラス南京

外務省

交渉ノ基礎トシ由天下ニ於ケル日本軍隊カ支那軍隊ノ三十支里離隔ノ地ニ出ヒタル場合ニ於テハ日本人ノ滅亡セシムルトキハ南京交渉ノ中止

掛上ニ於テ益々次第ニ付日本軍隊ハ自ラ防衛ニ出テラレサル場合ニ於テハ

南京附近ニ撤退シ、社会ノ命令ニ依リ、大正八年ノ交渉ハ右ノ場合

5-0111
0432
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

勝敗ハ、仮令ヒ一ト中出タリトモ
仮ヒ如何ニ日本軍ノ[illegible]ニ、拘ラズ何ノ不可
ナル指令ニ出テタルヤトハ為サレズ
中途ニシテ二兵ハ[illegible]軍ノ吉林先ヅ
全ク格ハシキモ所ハ上海ノ五一五ヲ有シ
タリトスルモ出発ノ何ノ[illegible]ノ日ノ
横城ニ下ル無用ノ為ニ[illegible]中出
ノ次第ニ早速大山ヒ中上ニ[illegible]ト為

外務省

一、此ノ
如ク簡単ナル会談ノ[illegible]後用主ノ
[illegible]ノ声ノ伝ヒ鄭家屯ノ件ニ[illegible]
日本政府ノ指出セシ条件ノ全ク
私的談話トシテ漏サレ下ニ[illegible]キヤト迄
一、本日ノ新聞ニ依ル林ノ使ヒ
ノ文[illegible]長ノ[illegible]ノ用ヒタル表ヲ
ト下ル[illegible]ハ[illegible]ウモ[illegible]
[illegible]ノ朝ノ[illegible]

5-0111
0433
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六条件ノ第六ニ関シ陛下ノ存念如何
大使ヲ介ヲ感サレテモ差支ナカラント思
ハレシ点ニ付テハ新聞ニ何ト出タリカ
第六ニ関シ林ニ使ハシタル如ク
ハ何ト形式ニ付テ支那政府ニ異議
アリ陛下ニ対シ奉ラズ且若シ
仮ニ詳細第六ニ関シ陛下ニ吾々ト
雖カ陛下ニ私的話ヲ申上ケタ
ルト云フ次第ニ非ス近日出ス
積リナリ

外務省

5-0111

0434

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930051

急

支20285

陸軍省

陸普第二八四七號

大正五年九月二日 接受

鄭家屯ニ於ケル支那兵非禮暴行ニ関スル件照會

大正五年九月一日 陸軍次官 山田隆

外務次官 幣原喜重郎殿

八月十三日ニ於ケル鄭家屯事件ノ際支那兵ハ我死者ニ對シ非禮凌辱ヲ加ヘ傷者ヲ虐戮惨殺シ又死傷者ノ兵器及貴重品ヲ掠奪セシ事實有之候ニ付右ハ我鄭家屯守備隊包圍攻撃ノ事件ト苦ニ將来交渉上ノ重要事項ト被存候ニ付右事實ノアリシコトヲ豫メ支那當局者ニ申入マレ度及照會候也

陸軍

514-44

760

5-0111

0435

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930052

電信課長 [illegible]

大臣 [illegible]

次官 [illegible]

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

昭一八一一一(昭)

第七八七號

在外帝國大使 林公使

北京発 大正五年九月二日 本省着 三日午前一〇

今回ノ案件中我要求ニ係ル南滿洲及東蒙古ノ必要ナル地点ニ我警官ヲ駐在セシムルコトノ支那側ノ表向ノ承認ニ関シテハ誤解ヲ避ケン為メ支那側ニ對シ説明ヲ尽クスノ必要ヲ感シ本使ハ九月二日外交総長ニ對シ大要左ノ通リ述ヘ置キタリ

滿洲並蒙古ノ地方ハ十数年前迄ノ状況ハ実ハ馬賊輩ノ横行ニ任セアリシ地方ニシテ良民ノ旅行スラ

[illegible]

安全ヲ期シ難キ暗黒ノ状態ニ在リキ此状態ノ打破ヲ試ミタルハ実ハ露國ナリ然ルニ露西國ノ利害ハ衝突スルノ虞ナキニ至リ為ニ日露戰争ヲ惹起セリ戰争ノ結果トシテ滿蒙ノ主權ハ当然日露兩國ノ自由處分ニ委セサルヲ得サリキ(綾ル)

(奉天經由九月二日発一〇〇〇)

5-0111

0436

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930053

101

大臣 石井
次官
政務局
通商
人事
會計
文書
參政官
副參政官
電信課長

暗 北京發 大正五年九月二日午後二時
八八四 本省着 同日午前一時

石井外務大臣

林公使

第七八七号（優秀）

其際日本ハ滿洲ノ主權ハ挙ケテ之ヲ清國ニ還附スルノ議ヲ執リ清國保全ノ大主義ヲ實行シ以テ當時日本ハ滿洲ニ於ケル施政ノ改善ト秩序ノ維持ハ絶対ニ其必要ヲ認メ之ヲ當時ノ清國政府ニ要望シ清國政府ハ其實行ヲ誓ヒ内外

MT 514-44 763

良民ノ安全ヲ期スヘキ旨ヲ明言セラレ爾来五年十年ノ後今尚ホ其實績ノ挙ラサルハ遺憾ニ堪エサル次第ナリ今日本カ要望スル処ノ警察官駐在ノコトハ支那政府ニ於テモ其必要ヲ認メ之ヲ諾セラルヘキコトヲ信ス況ンヤ新シキ權利ノ要求ニアラサルニ於テヲヤ此要地点ニ警官ノ駐在ヲ要求スレハトテ支那ノ主權ヲ侵スヘキ次第ニアラス相互意志ノ疏通我国民ノ取締上又我人民カ安心シテ内地ニ立留ル点ニ付此要求ハ次第ナリ云々 （奉天領事ヨリ九月二日付八二〇）

MT 514-44 764

5-0111

0437

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930054

電信課長 [illegible]

大臣 石井
次官 [illegible]
政務 小村
通商
人事
會計
文書
參政官
副參政官

第七八八号

北京発
本省着 大正五年九月二日後八時〇分
三日前一時五分

石井外務大臣 林公使

一九一六 (昭)

本使ハ既報ノ如ク九月二日午後五時段国務総理ニ面會シ今朝陳外交總長ニ説明シタル通商ト同様我提出ヒタル解決案ニ對スル帝国政府主旨ノ在ル所ヲ反覆郵案ニ説明シ尚黎総統ヘモ義解ナキ様總理ヨリ詳細聴達アリタキ旨申述シタル儀段々之ニ對シ今ヤ我

秘 [illegible]

内閣ハ国會ノ承認ヲ経タル許リニテ裏基礎モ未タナキ如キ現在国内ノ如キ事件發生セシム我政府ノ意ヲ不幸トスル所ナリ又目下国會ニ向會中ナル今後本件解決ニ上幾多困難ナル事情ニ遭遇スルヤモト今ヨリ憂慮ニ堪ヘザル次第ナルカ兎ニ角我政府ハ出来得ル限リ貴国政府ノ要求ニ應ズル考ナリナルヘシ中ニハ随分困難ナル條件モ之ニ應ズル御提出ノ條件翻譯ノ上

5-0111
0438
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930055

王鴻年ノ調査報告ヲ参酌シ吉林省当局者ト共ニ
慎重ナル研究ヲ遂ケラレ後成ルヘク速ヤカニ解
決スルコトニ尽力スヘシト奉答セラレ本使ハ日
本ノ態度ニ対シ帝国政府ハ十分
ノ考慮ヲカヽル両国ノ親善ヲ念トシ誠意ヲ以テコト決
ス進捗ト諒察アリタキ旨申陳置キタリ

514-44
MT

107

大臣 石井
次官 政務 小村 森田 通商 人事 會計 文書 岡部
電信課長

奉天發 大正五年九月二日午後九時〇分
本省着 九月三日午後〇時〇分

石井外務大臣 矢田総領事代理

在支公使發本官宛電報差ノ通九月二日第六〇號
外交部僉事王鴻年ハ不日貴地通過鄭家屯ヨリ
帰京ノ筈ナルカ奉天通過ノ節ハ同人ニ御面晤ノ上
鄭家屯事件ニ関スル同人調査ノ概要及事件全体
ニ對スル同人ノ感想（曲直ノ孰レニ在ルヤヲ如キ
点ニ関スル）御聴取ノ上可成速ニ當方ヘ電報請フ
尚ホ九月二日本使外交総長ニ面會ノ節聞キ得タ

MT.
514-44

5-0111
0439
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930056

ル處ニ依レバ鄭家屯事件ニ関シ張作霖ヨリ中央政府ニ宛テタル電報中本軍隊ノ不都合ナル点ハ満洲ヨリ撤退シタル由ナルガ張ハ事件ノ發生以来我ニ對シ表面其の都下軍隊ノ不都合ヲ認識スルガ如キ態度ヲ執リナガラ裏面ニ於テ中央政府ニ對シ我方ヲ種々悪様ニ報告シ居ルモノノ如ク其表裏反覆ノ常ナラザル頗ル意ヲ得ザルモノアリ同人ニ於テ此上トモ右様反覆態度ヲ執ルハ甚タ面白カラザル次第ト考フルニ付序ナガラ右ノ次第貴官ニ参考迄ニ内報ス、外務大臣（幣原）アテ

110

電信課長 宏

大臣 石井

次官 十四

政務局 第六四號

八一九九(暗)

石井外務大臣

欽発 昭和六年九月二日午後九時五分
着 大正五年九月二日午後一時三〇分

酒匂領事代理

在奉天公使ヨリ左ノ通リ第三號

大臣宛貴電第五八號鄭家屯事件員官調査書ニハ最モ我陸軍側ヨリ報告ニ係ル十二日戦闘ノ際遺棄シタル我兵備者屍体ニ對シ加ヘタル支那軍隊ノ惨害行為(mutilation)ニ関スル事実ノ記載無之處右ハ其事実ノ存在ヲ疑生セシメザリシ為ナルヤ本件ハ内閣ノ大局ニ重要関係アル事柄ト考フルニ付特ニ缺

通商 人事 会計 文書 参政官 副参政官

5-0111

0440

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930057

点ニ對シ貴官調査ノ結果ヲ應御回電請フ本電ハ
貴官回電ハ大臣及奉天ヘ轉電アリタシ

電信課長 [illegible]

大臣 [illegible]

次官 [illegible]

政務 [illegible]

通商 [illegible]

人事 [illegible]

會計 [illegible]

文書 [illegible]

參政官 [illegible]

副參政官 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

930058

ニ國ハモノナリヤ否ヤ判定シ難シトノコトナリ

右公使及奉天ヘ轉電ス

MT 514-44 773

5-0111

0442

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930059

電送第三三三七號

昭和十年九月三日午前十時四分發

電信課長

政務局長

第一課

石井大臣

矢田總領事代理

本大臣發在仏使宛電第三三五号

第三三六号ノ暗号ノ儘内容ノ会上ニ

外務省

MT 514-44 774

5-0111

0443

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930060

電送第三八二號

昭和十年九月三日午後九時五分發

電信課長

主任 矢野田 佐伯 事務官

土亞

第一三六号

先電第三八七號ニ関シ

昨夜ハ高橋高等法院長ト面会シ第九法廷ニ於テ左ノ趣旨ヲ張作霖ニ伝フル様伝達方ヲ依頼シ置キ候

張学良ト郭家屯ヲ伝シ

関シ日本側ニ対シテハ支那官憲ノ不都合ヲ詫ビルカ如キ態度ヲ

示シ四郎向教官ヲ電源保

設ニ付キモ立ち退ク与ヘタル等

努メテ誠意ヲ表スル様ニ傾

帝国政府ニ於テモ今回支那政府

ニ提出セル本件解決事件

外務省

5-0111

0444

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

張ノ責任ヲ問フヲ如キ條件ヲ
附セス次第ナル事ヲ以テハ
張ハ中華政府ニ対シテハ吉リト
日本官隊ノ北ヲ嗚ラシ罪ヲ
立ト称嫌セムトスルモノ如シ張自ラ
然ノ如キ不敬ニ亦ノ態ヲ執
ル以上ハ日本政府ニ於テハ張ト
対スル日情ハ絶ヘ尽ク丹尽
シ別ニ高ノ指軍ヲ請フ
ノ如キ事ニ至ル一ク是レ自然ノ情
勢ニ出ツルモノナル而シテ張ニ於テ
幾ニ陥ラサルヲセラレタシ

右至急公使ヘ電ス

外務省

5-0111

0445

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

[redacted]

大臣 伺

930062

電信課長 ナ左

政務局長

第一課

左支

林公使宛

第三〇二号

貴電第七八号ニ関シ帝國政府ノ要ボトシテ提出シタル条件ハ茲ニ支那ノ

外務省

趣旨ハ[redacted]ハ在貴地英國公使ニ内示セラレ居リ支那政府ノ體面ヲ立テントスル我趣旨ヨリ全ク義ナシト認メラル先ハ知スルコトハ支那政府ノ體面ヲ貴方ハ(甲)ニ関シテハ其ノ内容ヲ示スコトナク單ニ(乙)条件ノ外ニモ支那政府カ任意ノ発案トシテ自ラ実行セントスル希望ニ置キタル項アルヲ生ズルヲ以テ且

奉天中継

第三二〇一號

大正五年九月二日 前一時発

石井大臣

MT 514-44 779-1

MT 514-44 779

5-0111

0446

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930063

右ハ支那政府ノ體面ヲ重スルノ意ニ
出ツタルモノナルニ付 此点絶対ニ秘密
ニセラレ度キ旨ヲ申添ヘ置キ度シ 以上
英国公使ノ外ニ露佛米公使ニ対
シテモ 先方ヨリ質問セハ同様内示
セラレ度キ旨ナキモ其ノ他ニ対シテハ御示
内ノ影響ヲ及ボスヤウ通信員等ノ利用セラレ
ル虞アルニ付 未ダ発表セサル
次第ニ付当地ニ於テモ内示方御取計ラ
ヒ合セラレ度シ

外務省

MT 514-44 780
MT 514-44 779-2

5-0111
0447
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930064

寫

八一八
平

大連発
本省着 大正五年九月 三日 後 二、
四日 前 三、

石井外務大臣　　松平康國

誤レル親善主義ノ結果却テ支那ノ侮辱ヲ招キ鄭家屯事件トナリ郭家店事件トナリ今又朝陽坡ノ事件トナル現内閣ハ従来ノ病弊ヲ受ケ帝国ノ面目威信ヲ犠牲トスルモ尚且無意味ナル親善主義ヲ固執スルヤ斯ノ如クシテ東洋ノ大局ヲ如何セン切ニ對支外交ノ根本的一変ヲ望ム（在満邦人ノ憤慨極度ニ達ス）

781

MT 514-44

114

電信課長
大臣（石井）
次官
政務
通商
人事
會計
文書
參政官
副參政官

北京発
本省着 大正五年九月四日後 一二、五、
九、五。

森田第七九号

（対支交渉ニ関スル件）

石井外務大臣

林公使

貴電第三四二号御来示ノ件第八一應御趣意ト存スルモ（甲）号ハ仮令支那側任意ノ姿トスルヲ実行ヲ希望シタル事項ナルモモ之ヲ説ク本使ヨリ書附トシテ公然提出シタルニ以上支那側ニ於テ大張要求ノ一端トシテ考慮ヲ加フヘキハ勿論其内容迂々世上ニ漏ヘ、

782

MT 514-44

5-0111

0448

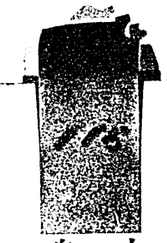
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930065

と全ンヘキハ従来ノ例ニ徴シ想像ニ難カラサ
ン所ナレトモ此際之ヲ聯合國側ニ細ニ
ドキハ昨年支那ノ除五号ニ関シ先角ノ
批評ノ頁ニタルト同様後ニ誤解ヲ招ク
虞アリト懸念サルヘキ事甲乙ニ若シ之ヲ
内示シ（清ス）

783

MT 514-44



大臣 石井
次官
政務
通商
人事
會計
文書
參政官
副參政官

電信課長 本

八二三五（昭）

北京発 本省着 大正十九年九月四日後一時〇分

第七九〇号 清ス

石井外務大臣 殿 公使

本日支那政府ノ体面尊重上特ニ秘密ヲ希望スル旨申添フルコトヲ方
社ニ付テハ支那政府ノ体面尊重上特ニ秘密ヲ希望スル旨申添フルコトヲ方
諸般ノ関係上得策ナルベシト存ス急御
詮議仰キタシ尚又本使カ郭泰祺事件ニ
関シ支那政府ト交渉ヲ開始セラルル人既
ニ一般ニ知レ因九月四日ノ「ペキン」ガゼットヨリ抜

784

MT 514-44

5-0111

0449

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930066

中ハ長文ノ記事ヲ掲ケ攻撃的論評ヲト
シ我要求中ニハ昨年ノ日支交渉ノ際立案
三項トシテ提出シタル撃案会辯ヲモ含ミ
アルコトヲ指摘シ居リ在人会間ノ要求條件
第四ヲ俄南ヲ故ラニ誇大ニ喧聽シタルモノ
ナリト存ジ尚当地言論界ニモ或程度迄
要綱條項及希望條項ノ内容ヲ示シ我要
望ノ穏当ナル所以ヲ明ニシ隣邦ノ誠意ヲ
撫護スルコト肝要ナルヘシト存ス偶々ヲ御

詮議ノ上何分ノ御回電ヲ請フ

5-0111

0450

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930067

八二四〇 晴

奉天発 在南京大正五年九月四日午後一〇、三〇

石井外務大臣 矢田総領事代理

第三九四歩

貴電第一三六歩御訓令ノ趣第菊池中佐ヲシテ爲ト張作霖ニ傳達セシメタル旨其際作霖ハ日支兵衝突事件其モノニ付テハ未タ詳細ノ事情判明セサリシヲ以テ縣知事其他ノ報告ヲ中央ニ傳達スルニ止メ研究ノ上ノ批評ヲ加ヘサリシモ其後ノ日本軍隊ノ行動似合ハ衝突ニ関係ナキ支那兵及巡警ノ

撤退要求其他ノ件ニ付テハ自分ニ於テ不平ナリシヲ以テ不満ノ情ヲ中央政府ニ上申シタルハ事實ナリ又電線架設ノ件ハ自分限リニテ義諾シタルモ未タ中央政府ニ報告セス要スルニ現外交總長陳錫煊ハ革命派ノ人物ニシテ自分ト相容レサレハ特ニ自分ヲ惡レ樣ニ誹謗シタルモノナルヘク自分ノ識意ヲ疑ハレルハ心外ナリト答ヘタル由

此旨ノ電報セリ

5-0111

0451

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930068

秘受930號

機密第五七號

大正五年八月二十八日

在鐵嶺
領事代理領事官補酒勾秀一

外務大臣子爵石井菊次郎殿

大正五年鄭家屯事件調査復命書提出ノ件

大正五年鄭家屯事件ニ關シ鄭家屯ニ出張シ調査ノ結果ハ貴電第四一號ノ御訓令ニ從ヒ往電第五九號ヲ以テ及復命置候得共尚詳細復命書別冊ノ通及提出候條御査閲相成様致度此段申進候敬具

本信寫送付先

在支那公使
在奉天總領事代理

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 790

MT 514-44 789

5-0111

0452

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930069

大正五年 鄭家屯事件調査復命書

在鐵嶺
領事代理領事官補 酒匂秀一

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 791

5-0111

0453

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930070

大正五年鄭家屯事件調査復命書

（大正五年八月二十二日鄭家屯ニ於テ認ム）

目次

一、事件發生前ノ氣配

二、事件ノ發端

イ、邦人吉本ノ遭難ト其ノ負傷ノ程度

ロ、河瀬巡査裕勝當内第二十八師第二十八團司令部ニ至ル

ハ、河瀬巡査我守備隊ノ應援ヲ得テ再ヒ第二十八師第二十八團司令部ニ至ル

三、支那兵ノ發砲ト我兵ノ應戰

イ、裕勝當庭内ノ交戰

ロ、裕勝當外街上ノ交戰

ハ、支那兵我守備隊營舍ヲ包圍攻擊セル狀況

二、日支死傷者ト慘殺

ホ、我戰死者ノ引渡ト其ノ狀況

四、休戰

イ、靖遼源知事ノ斡旋

ロ、知事及商務會總理ノ抑留

ハ、支那兵ノ鄭家屯撤退

五、在留邦人ニ對スル支那地方官民ノ態度ト我增派警察官ノ邦人保護

六、我增援軍隊ノ入鄭ト同市ノ占領

附我避難民收容所ノ解散

付錄

(一)鄭家屯市街圖

(二)事件發生ノ場所見取圖

5-0111

0454

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930071

(三) 支那軍隊ヲ我守備隊ヲ包圍攻撃セル地点見取圖
(四) 我戦死者ノ檢案調書
(五) 吉本喜代吉ノ經歷
(六) 吉本負傷ノ診斷書
(七) 河瀬巡査ノ經歷ト其ノ爲人
(八) 参考寫眞
1、療養中ノ吉本喜代吉
2、裕勝當内團長室ト彈痕
3、裕勝當庭内
4、鄭家屯我守備隊ト西南隅ノ砲樓
5、鄭家屯市街
6、鄭家屯郊外ノ我歩哨
7、鄭家屯滿鐵分局内ニ避難セル我居留民

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 794

5-0111

0455

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930072

大正五年鄭家屯事件調査復命書

一、事件發生前ノ氣配

鄭家屯ニハ從來吳統領部下ノ後路巡防隊駐屯シ居リシガ最近蒙匪討伐ノ爲其ノ殆ド全部洮南府方面ニ出動セリ然ルニ蒙匪ハ其ノ勢力强大ニシテ討伐軍ヲ惱マスコト大ナルノミナラズ更ニ進ンデ鄭家屯ニ來襲セントセシヲ以テ茲ニ討伐軍ノ補充ト鄭家屯防備ノ必要上第二十七師及第二十八師兵ノ出動トナリ第二十七師中歩兵一連、砲兵一連、砲二門、騎兵一連ハ本年八月七日ニ又第二十八師中騎兵一營ハ同月十一日ニ鄭家屯ニ到着シ數戸ノ商戸ニ分營假駐セリ彼等ハ右兩師中ヨリ選拔セラレタル軍兵ニシテ敢死隊ノ名ヤリ自ラモ懍悍決死ヲ以テ任ジ自國官民ニ對シテモ傲慢ナリシガ蒙匪中ニハ日本人加入シ居リ巧妙ナル戰術ヲ用フルヲ聞知シタル多クノ一般邦人ニ對シ悪感ヲ抱キ居タルガ如シ就中二十八師兵ハ從來黑山縣地方ニ駐屯シ我國ノ勢力ヲ知ラザルガ爲邦人ヲ侮蔑シ居タルモノノ如シ即チ本事件發生前ニモ左ノ如キ出來事アリタリ

(一)本年八月十二日同地我守備派遣隊ニ於テハ同地附近ニテ夜間演習ヲ行ハントシ井上隊長ハ鎮守使署ニ董參謀長ヲ訪ヒ此旨ヲ通告シタルニ同參謀長ハ目下二十七、八師兵來駐シ居レルヲ以テ此等軍隊ニ對シテハ同隊長ヨリモ可然通告方希望セルニ付同隊長ハ同日裕勝當ニ第二十八師楊騎兵團長ヲ訪ヒタルニ不在ト稱シ同隊長ノ差出セル名刺ヲ返付シ宿營所内ニ立入ラシメザリシト云フ

(二)同月十二日夜第二十八師兵數名一團トナリテ同地質商荒

MT 514-44

MT 514-44

5-0111

0456

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

木彌市方ニ到リ賣價四五角ニ相當スル褲子ヲ出レテ壹元五角ヲ借入レムコトヲ要求シ使用支那人ヲ罵倒シテ立去リタル事實アリ

(三)同月十二日午前十一時頃同地陸軍用達邦商伊藤喜蔵ハ同地守備隊佐藤曹長ノ依賴ヲ受ケ守備隊ノ屋主萬源當主人住宅ニ使ニ行ク途中同家ニ宿營中ノ一名ノ第二十七師兵ガ故ラニ突當リタルモ其ノ儘ニ行過ギ屋主方ニ至リ屋主ト同伴シテ歸ラムトスル時其ノ庭内ニ在リタル一名ノ兵ガ誰何シテ所用ヲ尋ネタルニ付屋主方ニ用事アリテ來レリト答ヘタルニ傍ニアリタル兵士ハ何故カ毆レト云ヒタルタメ伊藤ハ「毆レルモノナラハ毆ツテ見ヨ」ト云ヒ返セル處ヲ屋主ガ仲裁セシ爲無事ニ歸還セリ

二、事件ノ發端

イ、邦人吉本ノ遭難

鄭家屯南街在住賣藥兼質商廣濟堂事廣松亀十郎方店員吉本喜代吉(當二十七年經歷別紙ノ通)ハ大正五年八月十三日所用ノ爲鄭家屯北街ニ赴キ同日午後三時三十分頃歸途同地南街魚野菜市場衢衢(横筋)雜沓中ニ於テ不圖一名ノ支那兵ト突當リタリ吉本ハ二三間行過キテ後只日本語ニテ「慌テ者ガト」獨語シツツ行過キムトシタルニ後方ヨリ追來レルガ如キ氣配アリタル爲振リ返リ見タルニ一名ノ丈高ク瘠セタル支那兵ガ追跡シ來レルヲ認メタルガ同兵士ハ吉本ノ胸倉ヲ摑ミ手ヲ以テ毆打セリ吉本ハ之ニ抵抗シツツ該支那兵ノ冠レル帽子ヲ奪ヒタルニ其ノ附

5-0111
0457
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930074

近ニ在リタル一名ノ支那兵ハ前記支那兵ニ加勢シ吉本ノ手ニ咬ミ付キテ吉本ノ手ニセル帽子ヲ奪ヒ返シ更ニ吉本ヲ毆打セリ吉本ハ其ノ際前ニ突當リタル支那兵ノ黄色ノ襟章ノ右ニ28、左ニ310ナル記號ヲ現認シタルガ進ンデ其ノ行先ヲ突止ムル目的ニテ該支那兵ニ尾行シテ其ノ附近支那商豊聚當方門前ニ到リタル際該支那兵ハ門ニ立テ掛ケアリタル天秤棒ヲ採テ更ニ同人ヲ毆打シタル儘門内ニ走リ込ミタリ吉本ハ直ニ引返シ我領事館警察官吏出張所巡査河瀬松太郎ニ該事實ヲ申告セリ

吉本ノ受ケタル創傷ハ別紙診断書寫ノ通ニシテ左手拇指小指ヲ除キ中三指ニ打撲傷左足大腿部及脛ノ上部及下部外側三箇所同上右手手首ニ咬傷一箇所

背及唇打撲傷前額同上ナルガ經過良好ナリ

尚加害支那兵ノ所屬ハ不明ナルモ第二十八師騎兵第二十八團第三營第十連ニ屬セシモノト推定セラル

四、河瀬巡査第二十八師第二十八團司令部ニ至ル

河瀬巡査ハ前項吉本ノ申告ヲ受クルト同時ニ一應其ノ顛末ヲ聽取シタル後時ヲ移サス吉本ヲ隨ヘ吉本ノ毆打セラレタル場所ニ到リ附近ヲ搜索シテ該毆打ノ用ニ供シタル天秤棒ヲ發見シ證據品トシテ之ヲ吉本ニ携ヘシメテ洮遼鎮守使署ニ赴キ董參謀長ヲ訪ヒタルニ不在ナリシヨリ更ニ李交際員ノ在否ヲ尋ネタルニ知事衙門ニ赴キ不在ナル由ナリシヨリ同巡査ハ所用アル旨ヲ告ゲテ電話ニテ呼來ラムコトヲ依頼シ電話往復ヲ耳ニシツツ約十分乃至三十分待合セタルモ

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0458
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930075

要領ヲ得ザリシヨリ吉本ヲ隨ヘテ鄭家屯南北街東西衢衢ナル支那商裕勝當方支那第二十八師第二十八團司令部ニ向ヘリ

備考右河瀬巡査ガ支那軍隊ニ赴キタルハ從來同地方支那軍隊對帝國官民ニ關スル事件ハ直接支那軍隊ニ到リテ交渉スル并例トセシ由ナレバ之ニ依リタルモノト認メラル而シテ河瀬巡査ガ最初鎮守使署ニ赴キタルハ比較的事理ヲ解スル董參謀長(前遼源知州)及李交際員(日本語通譯)等ノアルアリテ之等ヲ外シテ二十八師ニ警告スルノ穏當ナルヲ思料シタルモノナル可ク後直接二十八師營舍ニ赴キタルハ董參謀長及李交際員不在ニシテ徒ニ時間ヲ費スニ於テハ時機ヲ失スルノ虞アリト認メ

タルニ由ルナルベシ

然ルニ司令部表門ノ前ニ立テル歩哨二名ハ小銃ヲ有シ居タルガ河瀬ガ同門ヲ入ラントスルヤ小銃ヲ持テル靴ヲ以テ立入ルコトヲ制止セシモ河瀬ハ之ヲ仆ケテ門内ニ入リ拔刀シツツ進ミ行キ司令部家屋ノ前ノ小門ノ前ニ至リ此所ニテ刀ヲ鞘ニ納メ團長ニ面會ヲ求メタルニ四五名ノ兵出テ來リ團長ハ不在ナリトテ取合ハズ歸レ歸レト去ヒ拳銃ヲ擬シ河瀬ニ退出ヲ強要セリ河瀬ハ團長ガ故意ニ面會ヲ避ケントスルモノナリト思料セシモノカ或ハ斯クテハ不得要領ニ終ル可シト思料セシモノカ隨伴セル吉本ニ對シ我守備隊ニ到リ同隊長ニ現況ヲ述ベテ護衛兵ノ差遣方ヲ乞ハシメタリ吉本ハ直ニ守備隊ニ向ヒタルガ吉本ガ隊長ニ此旨ヲ述ベ居ル内ニ河瀬モ同隊ニ來リ交渉ノ目的ヲ達ス

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0459
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ルニ為ス必要ナリトテ護衛兵ノ差遣方ヲ隊長ニ申入レタルガ井上隊長ハ其ノ状況ヲ聞キ直ニ之ヲ承諾シ松尾中尉ニ下士以下二十二名ヲ引率セシメテ出張方命令セリ時ニ午後四時三十分頃ナリ

此時吉本ハ應急手當ヲ受クル為軍醫ノ許ニ赴キタルニ付河瀬ニ隨伴セズ前顯吉本ノ持チ居タル證據品タルベキ天秤棒ハ邦人津守傳一ナル者携ヘテ河瀬一行ト共ニ裕勝當ニ向ヘリ

備考本項中支那兵ガ河瀬ヲ制止セシ状況ヲ知レル者ハ吉本ノミナルガ同人ハ支那兵等ガ或ハ拔劍シ或ハ拳銃ヲ擬シテ河瀬ニ歸レ歸レト強要セリト申立タレトモ仔細ニ訊ヌルニ及ビ不確實ノ点アルヲ認メタリ恐ラク支那兵等ハ河瀬ノ周圍ヲ取巻キ拳銃ヲ

手ニシ或ハ小銃ヲ擬シテ（斯ル場合支那兵ガ小銃ヲ擬スルハ稀ナラズ）「歸レ歸レ」ト強要シタルモノナラン

ハ河瀬巡査我守備隊ノ應援ヲ得テ再ビ第二十八師第二十八團司令部ニ至ル（本項ハ別紙見取圖ト併覽アリタシ）

河瀬ハ松尾中尉以下ノ護衛ヲ得テ再ビ裕勝當内第二十八師第二十八團司令部ニ赴キタルガ此時河瀬ハ先頭ニ立チ松尾中尉ハ乘馬ノ儘我兵士ハ何レモ小銃ニ着劍シテ司令部ノ表門内ニ入レリ（前項津守傳一モ追從セリ）

門前ノ歩哨ハ何等抑制スル態度ナカリシモ門内各宿舍内ニ在リタル支那兵等ハ「打扶々々」ト呼ビ窓口ヨリ銃ヲ擬シタリ茲ニ於テ我兵士等ハ危険ヲ避クル為著劍ノ儘庭内ニ散開シタリ河瀬ハ今野守備隊通譯及梅山軍曹外四名ノ我兵士ト共ニ團長室前ノ小門ノ前マデ

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0460
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

至リタルニ二名ノ歩哨(或ハ門内ヨリ出ヲ來レル兵ニシテ歩哨ニアラズト云フモ確カナラズ)ハ「打死」ト呼ビ小銃ヲ擬シテ河瀬等ノ同門ヲ入ラムトスルヲ制止セシモ河瀬等ハ「決シテ打扶スル爲ニ來レルニアラズ」ト告ゲツツ彼等ヲ作ケテ團長室内ニ入リタリ此際室内ニ在リタル支那兵ハ窓口ヨリ拳銃ヲ擬シ居タリトスフモ確カナラズ同室ハ別紙見取圖ノ如ク三部屋ニ分レ何レモ日本間約一間半ニ約二間ノ狹隘ナル部屋ニシテ甲ハ團長ノ居室乙ハ土間丙ハ護兵室(日本尺約三尺ノ入口アリテ巾約三尺ノ土間アリ他ハ溫突ナリ)ト認メラルルガ河瀬等ハ乙室土間ヨリ護兵室ノ土間ニ入リタルニ其ノ土間ニ二名ノ支那兵アリ一名ハ比較的美服ヲ著ケ一見將校ラシキ風体ヲナシ居リ(我守備隊側ニテハ確ニ將校ナリシト云フモ馬弁ナリシカ如シ馬

弁ハ護兵ニシテ曹長位ノ階級ニテモ一見將校ト同樣ノ服裝ヲ為シ居ルヲ例トス)他ノ一名ハ普通兵ノ服裝ヲナシ居タリト云フ河瀬ハ右將校ラシキモノニ對シ「我々ハ決シテ打扶ー戰爭ノ意ー スル爲ニ來レルニアラズ團長ニ所用アリテ面會ノ爲ニ來レルモノナレバ此旨ヲ團長ニ通ゼヨト述ベシニ該支那兵ハ團長ハ張旅長ノ宿營セル巨盛當ニ赴キ不在ナリト答ヘタリ河瀬ハ然ラバ彼ヲ呼ビ來レト述ベ次デ二三ノ問答アリタルガ(今野通譯ハ松尾中尉ノ許ニ行キ居リタリ生殘兵二名共ニ其ノ問答ノ何ナリシヤ分ラザリシト云ヘルモ守備隊ノ調査ニ依レバ河瀬ガ支那兵ニ對シ拳銃ヲ手ニ取ルハ危險ナリト注意セシニ該支那兵ハ日本兵モ著劍セル故同樣ナリト答ヘタリトアリ)此際該支那兵ハ斷エズ衣嚢ニ在リタル拳銃ヲ手ニシ

5-0111
0461
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

居リ危險ナリシ爲河瀬ハ更ニ室外ニ出ノデテ談話セムコトヲ申出デタルニ該支那兵ハ出ハト出ザルトハ自分ノ勝手ナリト答ヘタリ右問答中我兵五名ハ何レモ著劍ノ儘身構ヲナシ該支那兵ヲ注視シ居リシガ該支那兵ハ右ノ言葉ヲ言ヒ放ツヤ手ニセル拳銃ヲ河瀬ニ擬シタリ其ノ刹那河瀬ハ拔刀シテ「打ツナラ打テ」ト日本語ヲ以テ叫ビタルニ果然該支那兵ハ拳銃一發ヲ放チ戶外ニ逃ケ出デムトセリ此時他ノ一名ノ支那兵モ周章狼狽シテ逃ケ出デタリ該彈丸ハ阿部一等卒ノ腹部ニ命中セシガ他ノ我兵士等及河瀬ハ一名ノ支那兵ヲ乙室即チ土間ニテ刺シ殺シ他ノ一名ヲ室外ニテ殺セリ備考(1)土間ニテ何レノ支那兵ヲ殺セシヤ分明セズ又他ノ一名ハ之ヲ室外ニテ殺セリト云フモ確ナラズ死体ハ土間(乙室)ニ一及別紙見取圖中メ印アル室外ノ地点ニ一アリシト云ヘバ二名共殺サレタルモノト断レテ可ナルカ如キモ謝鐵嶺交渉局長ガ新民屯ニ至リ今回ノ事件ノ傷者ニ就キ取調ベタルニ右二名中楊蔭亭ナル者ハ土間ニテ殺サレタルモ他ノ一名ナル馮廷相ハ室外ニテ左肩先ヲ切ラレ更ラニ右手ニ貫通銃創ヲ受ケタルニ不拘九死ニ一生ヲ得テ逃ケ遂ケタルモノナル由ナリ又我生殘兵ノ言フ處ニ據リテモ一名ハ確カニ土間ニテ殺セシモ他ノ一名ハ戶外ニ逃ケ河瀬ハ其ノ跡ヲ追ヒ行ケルガ如シト而シテ見取圖(ツ)印ノ處ニアリテ前顯天秤棒ヲ持チ待チ居タル津守ハ河瀬カ前記メ印ノ邊ニテ支那兵ノ左肩先ヲ切リタルヲ現認セリト申立テ居ルヨリ考フレバ或ハ一名ハ

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0462
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

逃ゲ遂ゲタルカトモ思料セラル

(二)該支那兵ハ逃ケムトセシニアラズシテ河瀬ガ彼ノ手ヨリ拳銃ヲ奪ヒ取リ首筋ヲ摑ミテ戸外ニ引出サムトセルナリト津守ハ申立テ居レト支那兵ガ拳銃ヲ發射スル以前既ニ河瀬ハ拔刀シ居タルヲ我生殘兵ガ現認シタリト云フニ付此津守ノ言ハ信ゼラレズ

(三)小宮ノ得タル守備隊側ノ報告寫ニハ河瀬拔刀ノコトナク支那兵發砲後ニ於テモ河瀬以下屋内ニ在リシ者ハ尚平和ニ解決スルノ意思ヲ有シ發砲セル支那兵ノ拳銃ヲ九山上等兵以下協力シテ奪取シ他ノ一名ノ支那兵ハ河瀬之ヲ押ヘ屋外ニ引出セリトアルモ本項記述ノ次第ヲ眞相ナリト認ム

(四)本項中河瀬對支那兵ノ問答及支那兵ガ發砲スルニ至レル邊ノ現況ヲ知レルハ河瀬ト同行別紙見取圖兩室ナル護兵室ニ至リタル我兵士中生還セシ九山、佐々木西上等兵ノミナリ尤モ前項末段津守傳一ハ別紙見取圖中㋿印ノ点ニアリシヲ以テ多少室内部ノ事態ヲ知リ得タルナルベシ

小宮ハ現場ニ於テ前顯九山、佐々木西上等兵ニ就キ内藤少佐(増派歩兵大隊長)ト共ニ仔細ニ調査シタリ

三、支那兵ノ發砲ト我兵ノ應戰(別紙見取圖參照)

イ、松尾中尉ノ交戰

松尾中尉ハ部下ニ散開ヲ命シ團長室前ノ小門外ニ乘

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0463
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930080

馬ノ儘居リタルガ河瀬等ガ室内ニ入ラムトセル際銃ヲ
擬シタリシ支那兵共ヲ無禮ナリトシ部下ヲシテ引連レ來
ラシメントナシ居タリ然ルニ室内ニ銃聲聞エ引續テ他ノ
室内(見取圖中兵室ト記載セル室)ニ在リタル支那兵等
モ發砲セシ爲「打テ」ノ命令ヲ下シ自分ハ馬ヨリ下リ團長
室前ノ小門ヨリ逃出テ來レル支那兵二、三名ヲ切リタル由ナ
リ此時既ニ猛烈ナル戰鬪開始セラレ河瀬及我兵五名
即死シ松尾中尉以下三、四ノ負傷者ヲ出セリ茲ニ於テ松
尾中尉ハ「街道ニ出デヨト」命ジ自分モ表門外ニ出デタル
ガ支那兵等ハ追擊ニ追擊ヲ重ネタリ一面團長室圍
壁ニ據リ居タル梅山軍曹以下六名(内一名ハ地方人津守
ナリ)ハ退却ノ機ヲ失シ團長室ニ籠リ約二十分間奮鬪
セルモ内三名ハ敵彈ニ殪レ形勢危險ナルヨリ一齊ニ突

進シテ表門ヲ出デ歸還セルガ内梅山軍曹ノミ負傷セリ
而シテ此日裕勝當内ニ在リタル支那兵ハ將校三下士以
下十九名ナリシト云フ右ハ確カナラザルモ裕勝當ハ司令部
ニ充テラレ居タル關係上多數ノ支那兵在ラザリシモノ
如シ

(二) 裕勝當外街上ノ交戰

裕勝當ヨリ退却セル我將士ハ此時既ニ多數ノ死傷者ヲ
出シ完全ニ戰鬪シ得ル者約十名内外ナリシガ同門前
街上ニ散開應戰シタル後(戰死兵二負傷若干アリ)更
ニ東ニ漸次退却シツツ應戰シ郵政局衢衢ニテ更ニ散
開シテ應戰シ居タリ(戰死一負傷若干アリ)一面井上守
備隊長ハ松尾中尉以下ノ出向セル後僅ニ約十數分間
ニシテ裕勝當方面ニ盛ナル銃聲アルヲ聞キ中島中尉

5-0111
0464
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニ營内ノ守備ヲ命ジ自ラ下士卒二十餘名ヲ引率シ急
遽赴援セリ井上隊長ハ直ニ引返レタル由ナルガ嶋田軍
曹以下ハ守備隊南門ヲ出デ南大街ヲ西ニ行進セリ此時
支那兵等ハ西方ヨリ盛ニ應援部隊ヲ射撃セルガ應援
部隊ハ進ムコト約百五十米突ニシテ郵政局衙衙ニ到リ同
地点ニアリタル松尾中尉部下ノ隊ヲ併セ負傷者ヲ收
容シテ漸次南街ヨリ退却シ守備隊裏門ニ入レリ

小、支那兵我守備隊營舍ヲ包圍攻撃セル狀況

追撃ニ追撃ヲ重ネタル支那兵ハ我守備隊ノ東西南北各
隣接家屋ニ宿營セル自國軍隊ト聯合シ午後五時半頃マ
デニ我守備隊ヲ包圍シ(別紙見取圖參照)殊ニ同隊ノ
南隣長勝德屋上西南隅萬源當内砲楼及西北隅巨
盛當内砲楼ニ據リテ我隊ヲ瞰射セリ我隊ハ多少ノ地物

ヲ利用シテ應戰ニカメ斯クシテ午後六時三十分ニ至レリ
此間我方ニ死傷ナシ

在鐵嶺日本帝國領事館

當時在鄭セル支那兵員ハ第二十八師第五十五旅長張海
鵬以下同師馬隊二十八團(團長楊德生)馬二營ノ三連馬
一營ノ一連計約三百名第二十七師百ノ七團々長蔡平
本以下步二營及步三營ノ全部馬三營ノ一連、機関銃
隊一連計步兵約千名騎兵約七十名機関銃二門砲二
門後路巡防隊步隊第六營約四百名砲隊第一營ノ一連
約百名砲四門ニシテ第二十七、八師馬隊ハ市内各商家ニ分
宿シ步隊ハ市外ニ分宿シ居タリ而シテ我守備隊ヲ包圍
攻撃セル支那兵數ハ不明ナルモ同地ニ在リタル第二十八師
兵ノ殆ント全部參加セシモノノ如シ二十七師兵ガ參加セシヤ
否ヤニ就テハ調査困難ニシテ不明ナルモ守備隊ノ東隣

5-0111
0465
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930082

忠發合内ニ二十七師兵カ居リタルヲ事實ナリトセバ該兵ハ機關銃ノ砲口ヲ我隊ニ向ケ居タリト云フ尚吳統領部下ノ兵ハ全然參加セザリシ如シ

備考 支那兵ノ宿營セル各商戸ノ支那人ハ何レモ當時恐怖シテ床下等ニ逃入シ居タリト述ベ本項ノ調査困難ナリキ

二、日支死傷者ト慘殺

彼我死傷者左ノ如シ

我戰死傷者

死傷別	部位	官等	氏名
死	腰部傷及傷ノ重大箇所	巡査	河瀬松太郎
死	胸部貫通銃創	後備歩兵軍曹	山藤忠七
死	同 上	歩兵軍曹	眞野眞一

死	胸部貫通銃創	歩兵一等卒	阿部堅次郎
死	同 上	同	及川杢之進
死	同 上	歩兵二等卒	近藤重七
死	頸部銃創	同 一等卒	萩原信二
死	同 上	同 二等卒	古畠義朗
死	頸部貫通銃創	同	山森重一
傷死	腹部貫通銃創	歩兵上等兵	市川清一
同 上	同 上	歩兵二等卒	榎本増雄
同 上	同上 但シ慘殺セラレタル形跡アリ	同	近藤周蔵
重傷	胸部貫通銃創	歩兵中尉	松尾彦治
同 上	右側股関節部貫通銃創	歩兵軍曹	梅山賢一
同 上	右側大腿貫通銃創	歩兵一等卒	後藤重之助
同 上	右胸部貫通銃創	同	市村銀太郎

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0466
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930083

同　上　右股面胸部貫通銃創　歩兵二等卒　桓川　薫

備考ハ傷死者ハ何レモ翌十四日死亡セルモノナリ

2、二等卒榎本増雄ハ休戦後午後七時頃守備隊営門側ニ於テ支那兵ニ射撃セラレ負傷翌十四日死亡セリ

3、死者近藤ハ惨殺セラレタルモノト認メラレタル由ナリ詳細ハ別紙検案書寫ノ通

4、死者河瀬死亡後ニ打撲傷ヲ受ケタル形跡アル由ナルモ確ナラス

5、死傷者ノ創傷ノ部位程度等詳細ハ別紙検案書寫ノ通

支那側ノ死傷者

死者四名重傷一名其ノ他多少ノ軽傷者アルカ如シ其ノ官等氏名創傷ノ部位程度等鄭家屯ニ於テハ一切不明ナルモ二ノ内ハノ備考中ニ謝文渉局長ノ言ヲ記入シ置ケリ

在鐵嶺日本帝國領事館

参照アリタシ

ホ、死者ノ引渡ト其ノ状況

我軍隊ハ退却ニ當リ收容ノ暇ナカリシ爲敵前ニ遺棄セル河瀬巡査及山藤軍曹外七名ノ死体ハ同日午後十時頃遼源縣知事ニ於テ我守備隊ニ引渡シタルモノニシテ其ノ所持セル武器其ノ他ハ左記ノ通何者ニカ掠奪セラレ居タリ而シテ死体ハ傷死者市川上等兵外二名ト共ニ一時守備隊營庭ニ埋没シ置キ同月十五日守備隊居留民會協力ノ上何レモ火葬ニ附シタリ

記

官等	氏名	帽	上衣	下衣	襦袢	靴下	靴	脚絆	巻脚絆	剣帯	剣差	弾薬盒	後盒	前盒	剣	三式歩兵銃
歩兵軍曹	山藤忠七						一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

5-0111
0467
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930084

計														
五			一	一			一	一					同	真野貞一
六			一	一		一	一	一					歩兵一等卒	萩原信二
〃 一二			〃 二一	〃 二一		〃 二一	〃 二一	〃 二一					同	阿部堅次郎
〃 六六			〃 一一	〃 一一		〃 一一	〃 一一	〃 一一					同	及川杢之進
九	一	一	一	一	一	一	一	一					歩兵二等卒	近藤重七
九	一	一	一	一	一	一	一	一					同	近藤周戚
九	一	一	一	一	一	一	一	一					同	古島義朗
八	一	一	一	一	一	一	一	一					同	山森重一
二	一	一	一	一	一	一	一	一						

河瀬巡査ハ帽子及服ヲ著ケタルノミニシテ其ノ他ニ一物モ所持品ナシ之ニ依リ想像スルニ警察手帳、警笛、捕縄、刀、刀帶、長靴、眺巻時計其ノ他ニ所持品アリタルモノト思料スルモ金額、品名等一切不詳

在鐵嶺日本帝國領事館

四、休戰

(イ) 靖遼源縣知事ノ斡旋

同日午後六時二十分頃靖遼源縣知事ハ彼我銃火ヲ停シテ我守備隊營庭ニ井上隊長ヲ訪ヒ同隊長ニ對シ(一)事件ガ突發的ナルコト(二)日本軍隊ニ敵對行動ヲ執ルハ第二十八師兵ナルコト(三)兩國ノ國交ニ影響スル大問題ニ立至ルベキコト(四)地方官ノ責任トシテ日支國民保護ノ責任アルコトヲ告知シテ先ヅ我ニ戰鬪中止ヲ乞ヘリ井上大尉ハ之ニ對シ支那軍隊ニシテ中止ノ希望アリ且ツ確實ナル條件ヲ附スルニ於テハ承諾スベキコトヲ答ヘタリ靖知事ハ直ニ立去リタルガ約十分ニシテ同知事及洮遼鎮守使署董參謀長ハ我守備隊ニ來リ井上大尉ニ對シ左ノ條件ヲ提供

5-0111
0468
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930085

シテ戰鬪中止ヲ乞ヘリ

一、第二十八師ハ直ニ銃火ヲ收メ鄭家屯市外ニ退クベシ又第二十七師兵ハ本件戰鬪ニハ參加セザルモ兇角亂暴ノ嫌ヒアリ成ルベク退去セシムルニ努ムベシ

二、向後鄭家屯ノ治安維持ハ吳統領部下ノ軍隊及巡警ヲ以テ之ニ當ラシムルコト

之ニ對シ井上大尉ハ承諾ノ旨告知シタル爲午後六時四十分彼我戰鬪中止ノ狀態ニ入レリ

(二)休戰後支那兵ノ發砲ト知事及商務會總理ノ抑留

前項ノ如クニシテ我軍隊ハ休戰狀態ニ入レルモノト信ジ居タルニ同日午後七時頃支那兵ハ再ビ數十發ノ銃火ヲ我方ニ送リ二等卒榎本增雄ハ之ガ爲ニ負傷(翌十四日死亡)セリ

之ヨリ數分前清知事、董參謀長及商務會總理趙正榮ハ我守備隊ニ到リ第二十八師ハ前記ノ條件全部ヲ容レ當地ヲ引揚ケツツアル旨告知シタルニ不拘前記榎本二等卒ノ負傷ヲ見タルヲ以テ井上大尉ハ前記三名ニ對シ其ノ誓約ニ違背スル旨ヲ責メ此上充分ナル條件ヲ附セザルニ於テハ斷然戰鬪ヲ中止セズトサシ知事及商務會總理ニ對シ人質トシテ我軍隊内ニ留ルベキ旨ヲ要求シ其ノ應諾ヲ得テ即時我隊内ニ兩人ヲ抑留セリ

右人質トシテ抑留セル清知事ハ職務上ノ都合アリシ故ヲ以テ翌十四日午前十時頃釋放シ其ノ代リニ知事ノ息清子障ヲ抑留セルガ右ハ商務會總理ト共ニ同月十六日午後七時頃松村中佐ノ指揮ニ屬スル我增援軍隊到著ノ後直ニ釋放セリ

5-0111

0469

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930086

八、支那兵ノ鄭家屯撤退

第二十八師及第二十七師兵ハ十三日夜ヨリ十五日迄ノ間ニ於テ鄭家屯市街ヲ撤退シタルモ市外四圍ナ支那里内外ノ重要地点ニ據リ恰モ市街ヲ包圍セルノ狀形ニアリ殊ニ鄭家屯四平街沿道ノ尚爾沁、張家窩棚等重要ナル地点ニハ多数ノ二十七、八師兵アリテ鄭家屯市街ニ於テハ之等ノ兵カ來襲スルノ擧アリトノ流言スラアリタリ然ルニ同支那兵等ハ十五日夜ニ入リ市街北方白寺方面ニ據リタル模様ナリシカ十六日午後ヨリ南方康平縣方面ニ漸次撤退シタリ之レ張督軍ノ電命ト靖知事趙商務會總理等ノ其ノ筋ニ哀訴シタル結果ナリト云フ斯クシテ我増援隊到着マデニハ鄭家屯及其ノ附近ニ二十七、八師ノ軍兵ヲ認メザルニ至レリ

在鐵嶺日本帝國領事館

五、在留邦人ニ對スル支那地方官憲ノ態度ト我増派警察官ノ邦人保護

當時鄭家屯ニハ約百三十名ノ邦人在住セルカ本事件ニ關シ吳統領部下ノ後路巡防隊並靖知事以下一般ノ支那官民ハ寧ロ我守備隊ニ同情ヲ表シ好意的中立ヲ嚴守セルノミナラス靖知事及董參謀長ハ我守備隊ノ爲便利ヲ計リ且ツ我在留民ノ保護ニ力メタリ殊ニ二十七、八師カ市街ヨリ撤退シ吳統領部下ノ軍隊及知事ノ配下ノ巡警カ市内ヲ警戒スルコトトナリテヨリハ我居留民宅前ニ二人宛ノ武裝兵ヲ配置シ保護ニ力メタル實情ナリシヲ以テ十五日迄ハ我居留民モ特ニ避難セサリシモ我増援隊カ入鄭スルニ際シテハ或ハ一旦退却セシ二十八師ト衝突ヲ來スコトナキヲ保シ難シトシ一般ニ憂慮シ居タリ然ルニ鐵嶺ヨリ派遣セシ藤田警部補

5-0111
0470
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930087

ノ一行七名ハ十六日午前二時著鄭シ牛島民會長ト協議ヲ遂ゲ萬一ノ場合ノ爲ニ一應居留民ヲ一箇所ニ收容保護スルコトトシ十六日午前九時マデニ滿鐵分局内ニ全部收容ヲ終リ一面同警部補ヨリ靖知事ニ對シ交渉ノ上邦人住宅ニハ巡警一名宛立番見張ヲナサシムルコトトシ翌十七日ヨリ之カ實行ヲ見確實ニ保護ノ目的ヲ達スルコトヲ得タリ

六、我增援軍隊ノ入鄭ト同市占領附避難民收容所ノ解散

我增援軍隊ノ内松村騎兵聯隊長以下騎兵二個中隊ハ十六日午後七時四十分内藤大隊長以下歩兵一個大隊ハ十八日午後三時四十分無事入鄭シ井上守備隊長ト靖知事トノ間ニ協定セラレ居タル左ノ商家ニ宿營セリ

北街　萬源當

一、混成增援隊本部

一、騎兵一箇中隊　北街　忠發合　第一中隊

一、騎兵一箇中隊　北街　裕勝當　第二中隊

一、歩兵大隊本部　裕勝當　歩兵第四十一聯隊第三大隊

一、歩兵一ヶ中隊　同　第十中隊

一、歩兵二ヶ中隊　南街　豐聚長　同　第九、十二中隊

一、機關銃隊　同　北街　匯盛當　同　第十一中隊

一、歩兵一ヶ中隊

一、救護班

5-0111

0471

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

右ハ何レモ二十七及二十八師ノ宿營セシ處ナリ而シテ騎兵隊ハ同市附近ノ搜索警戒ニ任シ歩兵隊ハ市内ノ警戒防備ニ服シ居リシカ二十一日午前八時松村聯隊長ハ我守備隊ニ董參謀長及靖知事ヲ招致シ左ノ要求ヲナセリ

一、鄭家屯及其ノ附近ニアル支那軍隊ノ全部ヲ同日午後一時迄ニ當地ヲ距ル三十支里外ニ撤退セシムベシ

一、鄭家屯及同地ト四平街間沿道三十支里以内ニ支那兵ノ立入ルコトヲ許サズ

一、市内ノ保安ハ從來ノ通知事ニ於テ責ヲ負フベシ

一、右保證トシテ人質三名ヲ本隊ニ差出スベシ

右ノ條項ヲ承諾セサルニ於テハ我軍隊ハ自由行動ヲ採ルベシ

尚從來商團モ兵士同様ニ見做サレ居レバ撤退ヲ要求シタ

ルニ靖知事ハ商團ハ商務會カ自衛上設置シ居ルモノニシテ戰鬪カナキコトヲ開陳シ撤退ヨリ除外セラレ度キ旨董參謀長ト共ニ強テ請願シテ止マザレハ松村增援隊長ハ左ノ條件ヲ附シ之ヲ承認セリ

一、商團ハ廣德鄉北大營ヨリ外出スルヲ許サズ

右ニ對シ董參謀長及靖知事ハ自分等ニ於テハ右條件全部之ヲ承諾スルモ一應重ナル者ト商議シテ後刻正式回答スベシトテ退席セシカ午前十一時ニ至リ董參謀長ハ李交際員ヲシテ我守備隊ニ松村增援隊長ヲ訪ハシメ前項我要求全部ヲ應諾ノ旨通知セシムルト同時ニ董參謀長ハ李副官ヲ靖知事ハ長男靖子障ヲ代理トシテ差遣シ趙商務會總理ハ自身出頭セルニ付我軍隊ニ於テハ右三名ヲ人質トシテ隊内ニ抑留セリ一面支那軍隊ハ

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0472
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

全部鎮守使署衙門ニ集合シ午後零時ヨリ鄭家屯北方雙山縣方面ヘ撤退ヲ開始シ同五十分全部撤退ヲ了セシニ付我軍隊ニ於テハ前記人員ヲ釋放セリ又我軍隊ニ於テハ支那軍隊撤退ニ際シ歩兵一ヶ大隊及騎兵ノ一部ヲ以テ支那各軍衙及知縣衙門ヲ包圍シテ警戒監守ニ當ラシメタリ

茲ニ於テ鄭家屯ハ事實上我軍隊ノ確實ニ占領スルトコロトナリ最早危險ナキニ至レルヲ以テ滿鐵分局内避難中ノ我居留民全部ハ各自宅ニ引取ルコトトナリ二十二日午前九時解散式ヲ行ヒ夫々歸宅セリ其ノ後市内平穏日支高民何レモ舊ノ如ク其ノ業ニ就ケリ　以上

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0473
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

附録

(一) 鄭家屯市街圖

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 830

5-0111

0474

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

814-44 831

遼源縣（鄭家屯）市街圖

5-0111
0475
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

MT 514-44 832

5-0111

0476

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930094

附録

(二)事件發生ノ場所見取圖

在鐵嶺日本帝國領事館

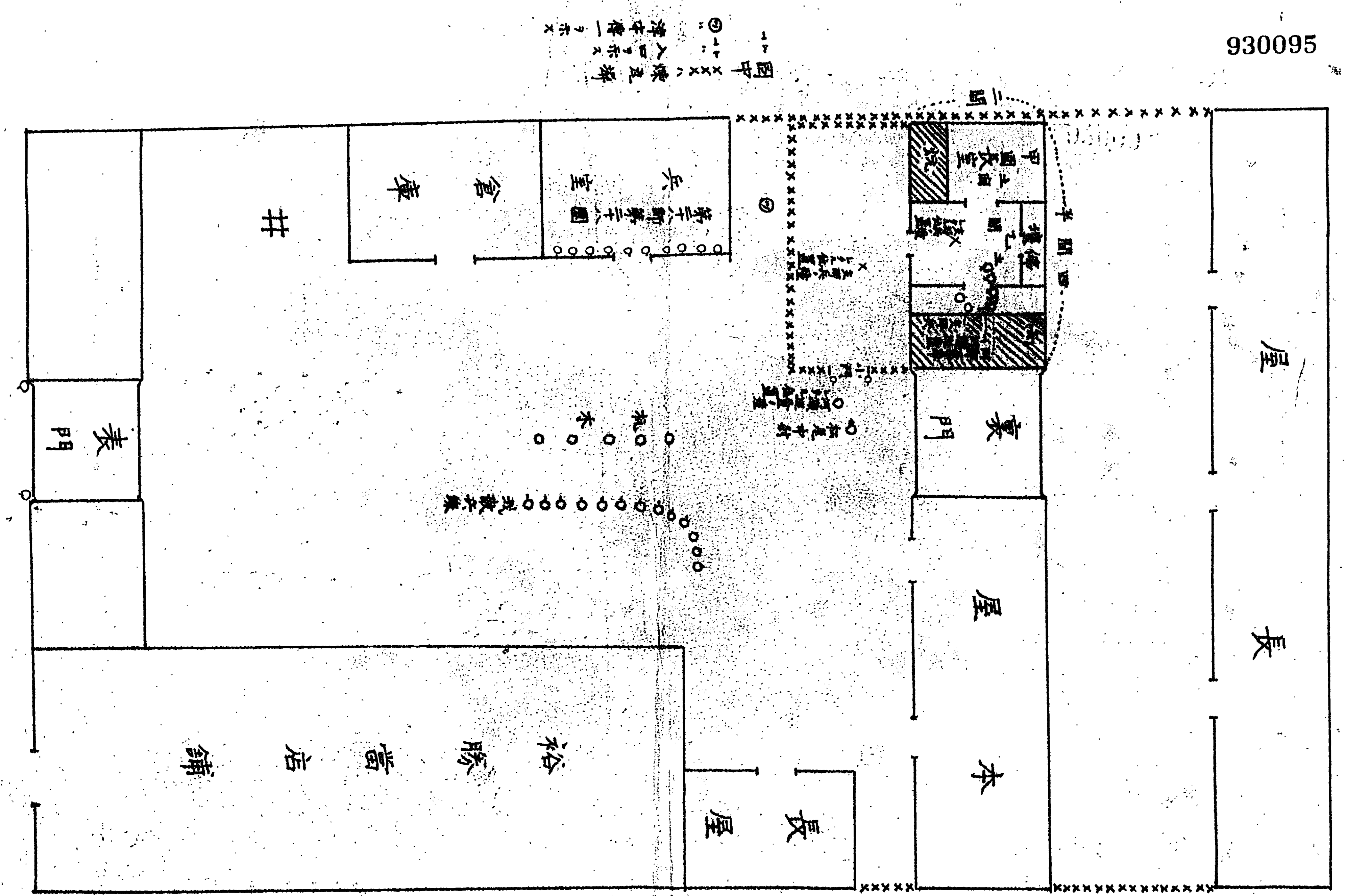
MT 514-44 833

5-0111

0477

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930095



現場見取圖

MT 514-44 834

5-0111

0478

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

930096

附録

(三) 支那軍隊ガ我守備隊ヲ包囲攻撃セル地点見取圖

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 835

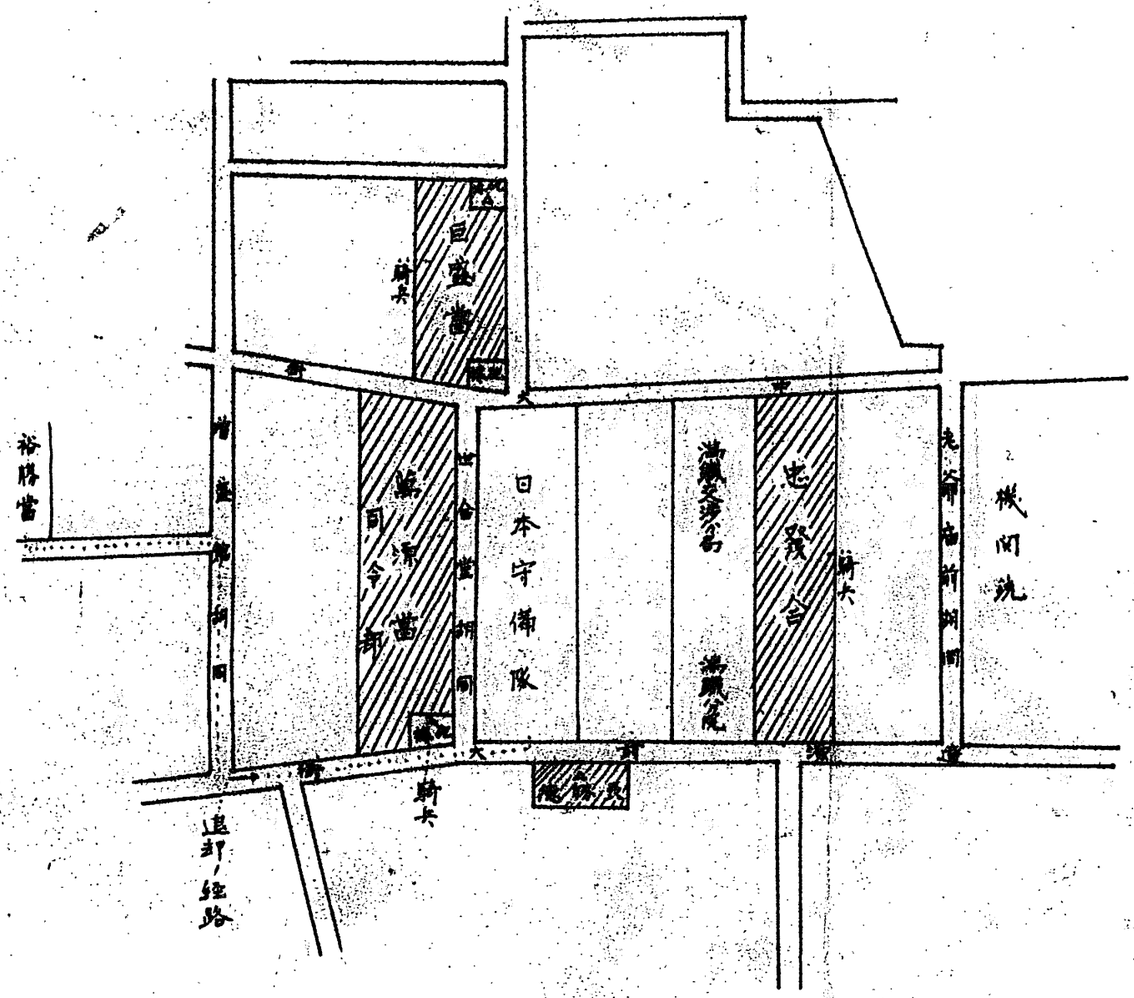
5-0111

0479

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930097

支那軍隊我守備隊ヲ包圍攻撃セル地点見取圖



備考

一、針線アル家屋ハ支那兵ノ宿營セルモノナリ

二、第二十八師第三十五旅司令部ハ巨盛當ニ在リ

三、印ノアル箇所ハ我軍隊ヲ撃射セル所ナリ

MT 514-44 836

930095

5-0111

0480

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930098

附録

(四) 我戰死者ノ檢案調書

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 837

5-0111

0481

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930099

歩兵二等卒 近藤金七

右側鎖骨尾端一横指下ニ一仙大ノ貫銃創及合側上膊骨頸部外側ニ一仙大ノ射入口アリテ合側背面肩甲骨下隅下ニ横指ニ長サ一仙半、巾五仙ヲ算スル左上方ヲ右下方ニ走レル紡錘形ノ射出創口アリ創面ヲ創口ヨリ多量ノ出血ノ為メ死セリト診断セリ

歩兵二等卒 荻原信二

右側頸蓋骨ハ長サ十三仙巾十仙大ノ創面ヲ創保銃蓋状ヲ呈セル不正三角ヲ呈シ脳漿脱出シ死亡セリト診断セリ

歩兵軍曹 山岸忠七

右側上膊外面三角筋腱停止部ニ長サ三仙巾二仙ヲ算スル貫銃創アリ右側鎖骨ハ長サ二仙半ノ射入口アリテ合側腋窩脈管及合側接骨ノ上端ニ於テ前后ニ走ル貫通銃創アリ創面ヲ射出口ハ長サ二仙巾一仙半ノ舟状形ヲ呈シ前面射入口ハ約一仙大ノ口径アリ死因ハ創口ヨリ多量ノ出血ニ因ス

歩兵上等兵 古島義朗

頭蓋骨ハ全部粉砕セシ左側内腎部ヲ鼻翼左側ニ突端ヲ有スル三角形ノ裂傷ヲ脳漿脱出シ脳底骨折ス

歩兵一等軍曹 奥野貞一

膀部ハ膀胱骨前上棘突起ニ至ル線ノ中央部ニ二仙大ノ射入口アリテ左膀胱骨ノ側一横指上ニ径一仙大ノ射出口アリ肛部ハ肛門ノ窩部膀胱上九仙ニ一仙大ノ射入口アリテ左側第十

肩貫銃創アリ右側肩胛骨下隅一横指下ニ一仙大ノ射入口アリテ合側腋窩脈管及骨部ニ長サ三仙巾一仙半ノ右上方ヲ左下方ニ走レル射出口アリ創面ヲ肋骨端脱出スル見ル及ビ合側接骨ノ上端ニ於テ前后ニ走ル貫通銃創アリ創面ヲ射出口ハ長サ二仙巾一仙半ノ舟状形ヲ呈シ前面射入口ハ約一仙大ノ口径アリ死因ハ創口ヨリ多量ノ出血ニ因ス

5-0111
0482
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

肋骨脊椎中央ヨリ十三仙左方ニ二仙大ノ射出口アリ右側腋窩線第七肋骨ニモ一仙大ノ射入口アリテ右肩胛骨下隅一指下ニ三仙半大ノ射出口アリ共ニ創口ヲ多量ニ出血シテ死亡セシモノト推断候也

第六、一等卒　阿部堅次郎

右側胸部孔隙ノ内側約三指巾ニシテ第七肋骨ニ沿フ一仙大ノ射入口アリ全例背面肩胛骨下隅ヲ下ハ仙半ノ部ニ沿フ一仙大ノ射出口アリ脊部ハ胸骨創状突起ト脊椎中間ニ孔隙アリ左約五仙ノ部ニ二仙大ノ射入口アリ脊面第一腰椎ノ高サニ脊柱ヲ距ル左方八仙ノ部ニ一仙大ノ射出口アリ共ニ創口ヲ多量ニ出血シテ死亡セシモノト推断候也

第七、一等卒　及川孝之進

右鎖骨左端ニ近キ部分ニ約一指巾上方ニ於テ全例頸動脈ノ外側ヲ射入（口径一仙）シ全例第十肋骨ノ遊離部ヲ射出（口径約四仙）セシ貫通銃創アリ共射入口ニ於ケル多量ノ出血ハ鎖骨下動静脈ノ傷害ヲ伴フベク又射出口ニ於ケル泡沫状出血ハ明カニ肺ヲ貫通セシモノニシテ北面ハ鎖骨下動静脈傷害ニ由ルモノト認

在鐵嶺日本帝國領事館

現役歩兵二等卒　近藤周蔵

一、二ヶ所貫通銃創ト四ヶ所ノ銃創刺創アリ

一、臍ト同高ニ於テ照部ヲ右ニ約五指巾距ル部分ヨリ射入（口径一仙）シ左腸骨前上棘ノ内方二指巾ノ所ヨリ射出ス（口径三仙）シ腹膜ヲ脱出セシモノ

一、下顎ヲ下ニ於テ正中線右一指巾ノ部ヨリ射入シ全例舌骨突起部ニ射出セシモノ

三、右上眼窩縁ヨリ下方ニ舌骨ヲ及上顎骨ヲ切割シ深サ脳

5-0111
0483
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930101

底ニ達スル三角形ノ切創ニシテ創口ヨリ破潰セル眼球及脳漿脱出セルモノ

四、右頬部ニ於テ前記創傷ト併行シテ上下ニ長サ四仙巾一仙深サ筋層ニ達スル切創

五、右側頸部ノ中央ニ於テ胸鎖乳嚢筋ノ前縁ヲ右後方ニ長サ八仙幅四仙深斜角筋ニ至ル紡錘形創傷銃刃ノ切創

六、陰囊右側ニ於テ上下ニ長サ三仙睾丸脱出セル刺創之レラ業スルニ死因ハ第一項記載ノ傷部貫通銃創ニ因レル第三第四第五ハ死後ノ銃剣刺創ト認ム

多矢二等兵曹 山本 金一

右側頂部ニ於テ耳殻後方四仙ノ部ヲ射入(口径一仙)シ左耳垂ノ直前ニ射出(口径二仙)セル貫通銃創アリ死因ハ延髄ノ貫通ニ因ルモノト認ム

在鐵嶺日本帝國領事館

巡査 何能松太郎

左側乳腺ヲ約一枝指内方第四肋骨部ニ長サ約二仙巾一仙半射入口アリ背面第三胸椎左方約一仙ノ部ニ於テ長サ三仙巾一仙半ノ射出口アリ死因ハ心臓部ノ貫通銃創ニ基クモノト認ム

以上ノ他ニ鼻骨起根部ヲ擦過シテ左眼球ニ射入セル盲管銃創アリテ眼球ハ破壊脱出シ眼窩底部ニ迷編セルモノ

死体ノ負傷ト認ム

5-0111
0484
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930102

附錄

(五) 吉本喜代吉ノ経歴

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 844

5-0111

0485

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930103

履歴書

高知縣土川郡伊野町三八番屋敷
平民 士族 安太郎養子 吉本喜代吉
明治廿二年十一月廿二日生

一、明治三十年四月高知縣安芸郡井口村唐濱尋常小學校ニ入學
一、仝三十四年三月同校卒業ス
一、仝三十四年四月高知縣吾川郡伊野町ニ実業補習學校ニ入學
一、仝三十五年三月品行方正學力優等ニ付賞状ヲ授與セラル
一、仝三十六年三月品行方正學力優等ニ付賞状ヲ授與セラル
一、仝三十七年三月同校ヲ卒業ス
一、仝三十八年八月神戸稅関監視部給仕採用ニ付三十九年三月辞任ス
一、仝三十九年四月朝鮮咸鏡北道咸興居住廣松亀十郎方ヘ店員トシテ傭入レラレタル付同地ニ出発ス
一、仝四十年二月廣松亀十郎朝鮮京城ニ移住セシニ付共ニ同地ニ赴ク
一、仝四十三年三月徴兵検査ノ為メ帰國ス
一、仝年十月吉本安太郎ノ養子トナル
一、仝四十四年九月当時朝鮮咸鏡北道羅南軍用地居住廣松亀十郎方ニ店員トシテ出発ス
一、大正二年三月廣松亀十郎滿洲ニ赴クニ付共ニ同行渡滿ス
一、仝年五月帰國ス
一、仝年十二月渡滿翌三年一月奉天西二条街九号地三和洋

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0486
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930104

行政次部方ニ店員トシテ傭ハル

一、大正四年九月要改次部方ヲ辞任シ當時遼陽縣鄭家屯居住廣松竜十郎方ニ傭入レラレ今日ニ至ル

一、刑罰ヲ受ケタルコト無シ

右之通リ相違無之候也

大正五年八月廿七日　右　吉本喜代吉

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 847

5-0111

0487

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

附録

(六) 吉本負傷ノ診斷書

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 848

5-0111

0488

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

診斷書

吉本喜代吉
二拾七年

一病名　咬傷、打撲傷

附記、右ハ大正五年八月十三日受傷、仝八月十四日午前拾時診査、其症狀左ノ如シ

一、前額中央髮際下三仙ノ部ニ長サ三仙巾二仙大ノ楕圓形ノ紫藍色ニ變シタル皮膚ノ一部破潰シ且ツ腫脹セル所アリ、之レ棍棒ノ尖端ニテ衝キタルニ因ル

二、上唇内面左犬歯ニ相對スル部ニ裂創アリ、外方ヨリ暴力ヲ用ヒテ打撲セシニ因ル

三、右腕關節橈骨側ニ於ケル咬傷ハ上下門歯各二個ノ深ク骨膜ニ達シ創緣不潔ニシテ既ニ多少化膿ノ徴アリ

四、左示指中指環指第二節以下一般ニ骨ノ腫脹ヲ認メ其背面ハ皮下組織挫滅シテ疼痛甚タシク掌側ハ全ク麻痺シ屈伸共ニ困難ナリ、強力ヲ用ヒ棍棒ニテ打撲セシニ因ル

五、左大腿外側中央部ニ於テ徑約十四仙大、大腿下端ノ外側ニ於テ徑約八仙大、下腿脛骨小頭部ニ於テ徑約六仙大ノ発赤腫脹セル部アリ、疼痛甚シク歩行困難ナリ、之レ亦棍棒ノ打撲ニ因ル

六、背部第三胸椎ノ右側ニ輕度ニ発赤腫脹シ而モ疼痛甚シキ部アリ、手拳打撲ニ因ル

以上ノ咬傷、打撲傷ハ最モ良好ニ経過スルモ猶病休業約二週間ヲ要スルモノニシテ、若シ夫レ骨膜炎

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111
0489
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930106

骨炎等ノ継発センカ、豫後ハ重大ニシテ終世癒
疾タルヲ保シ難シ

右診断候也

支那鄭家屯満鐵公醫
金章八十四日　醫師　早川博通

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 851

5-0111

0490

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

附錄

(七)河瀬巡査ノ経歴ト其為人

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 852

5-0111

0491

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

河瀬巡査ノ経歴及性格其他

職氏名　巡査　河瀬松太郎

勤務所　鐵嶺領事館警察署鄭家屯警察官吏出張所

拝命年月日　大正二年九月二十九日

命掌事項　大正二年十月八日鐵嶺警務署外勤同年十一月三日
鐵嶺領事館警察署外勤大正三年八月二十六日
北山城子警察官吏出張所外勤大正四年三月
四月鐵嶺警務署外勤同年八月二十七日鐵嶺領
事館警察署鄭家屯警察官吏出張所外勤

経歴　明治三十六年三月高等小學校卒業同四十年十二
月三日臺湾歩兵第二聯隊ニ入隊同四十二年
十二月一日上等兵ヲ命セラル大正二年五月一日旅
順管内胡家屯日本塩業會社臨時雇月
俸二十四圓給與

賞與　大正三年三月二十三日詐欺取財犯人捕賞金五拾錢

懲戒　ナシ

行狀　性温厚恭謙品行方正獨身生活ナルモ曾テ悪評ヲ流
シタルコトナク同僚間ノ交誼厚ク勤倹貯蓄ノ美風ナリ

勤務ノ勉否及事務　擔當事務ハ倦ムコトナク熱心處理シ能ク上官ノ
命ニ従順ニシテ注意力比較的良ク人ノ注意ヲ
熟達ノ狀況　待ツコトナク勤勉且ツ堅忍不撓進取ノ氣力
アリ外勤事務ニ熟達シ諸報ノ報告稍要領
ヲ盡セリ

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111

0492

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930108

附錄

八參考寫真

在鐵嶺日本帝國領事館

MT 514-44 855

5-0111

0493

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(八)参考寫真

(小官撮影セシモノ内参考トナル可キモノヲ左ニ添付ス)

八、療養中ノ吉本喜代吉

八月十三日負傷
八月廿二日撮影
脚部ノ繃帯ハ
既ニ除去シ居タリ

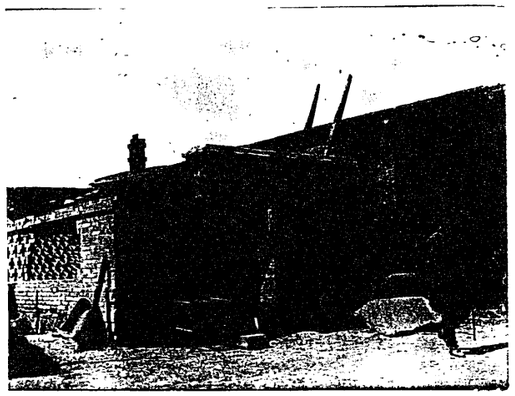
2、裕勝當内團長ト彈痕

復命書中

イ、團長室前ノ小門ト八圖中彈痕アル小門ヲ云フ

ロ、甲室ト八煙突ノアル部室乙室ト八其隣丙室即チ河瀬等ノ入リタル部室ト八梯子ノアル部屋

又圖中人物(山口警部)アル地点ニ河瀬殪レタリ

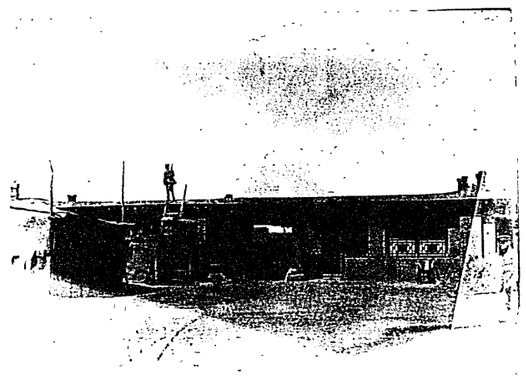


5-0111

0495

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

3、裕勝當庭内



圖中我兵ノ集レル屋根ノ下ノ部屋ハ即チ河瀬等ノ入リタル護兵室ナリ

4、鄭家屯我守備隊ト西南隅ノ砲楼

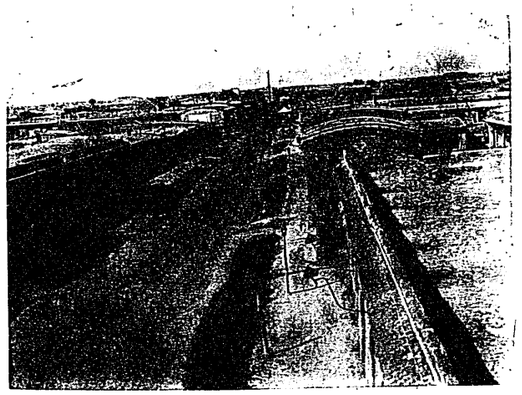
歩哨ノ立テル門ハ即チ守備隊ノ裏門ニシテ事件當時我兵ノ歸還セル門ナリ歩哨ノ立テル門ハ守備隊ノ西南隅ニアル砲楼ニシテ事件當時支那兵ハ此所ヨリ我隊内ヲ撃射セルナリ

5-0111

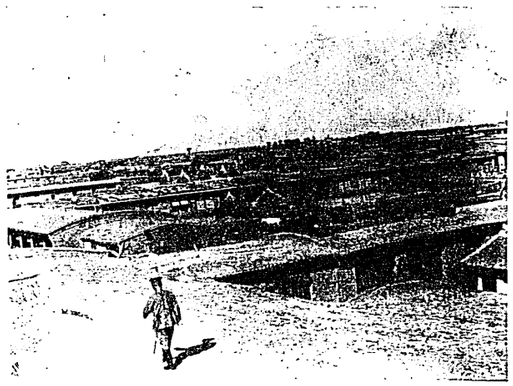
0497

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

5、鄭家屯市街



圖中ノ道路ハ守備隊裏門通ニシテ此所ニテモ交戰アリタリ圖中該道路ノ先ニ人ヲ見ル人影ハ市中警羅中ノ我騎兵隊ナリ



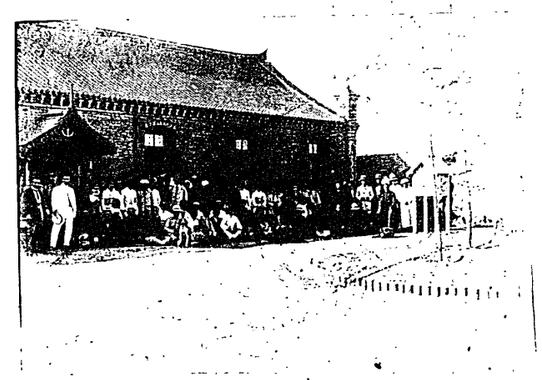
6. 鄭家屯郊外ノ我歩哨

5-0111

0499

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930112



7. 鄭家屯滿鐵分局内避難ノ我居留民

八月廿二日解散式當日撮影

在滿洲日本居留民資料館

514-44 862

5-0111

0501

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930113

秘受9529號

大正五年九月四日 接受

電報五八

大正五年八月三十日

在鐵嶺

領事代理領事官補酒匂秀一

外務大臣子爵石井菊次郎殿

鄭家屯事件ニ於テ支那兵ヨリ凌辱ヲ受ケタル日本人ニ關スル件

本件ニ關シ政機密第一五號ヲ以テ御來示ノ趣敬承機密第五二號寫ハ在支公使ヘハ既ニ郵便ヲ取計置候然ルニ在奉天總領事代理ヘハ被凌辱本人吉本ヨリ同樣屆出アリタル趣ナルヲ以テ同總領事代理ヘハ御報方省畧致置候條右ニ御承知相成樣致度尤陸軍當局ヘハ別報候

敬具

在鐵嶺日本帝國領事館

5-0111

0502

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930114

附属書類添附

大正五年九月四日 接受

機外第一〇八號

秘受9550號

今回ノ鄭家屯事件ニ対シ南満東蒙ニ於ケル直接局部ニ関スル急要善後変分トシテハ少クモ別記條項ヲ承諾セシムルコト肝要ト存シ候条御見御参考迄ニ提出仕候

追テ別紙事項中第一及第二ハ事実問題トシテハ既ニ之ヲ実行済シ居候ヘハ今回ノ交渉案件トシテ改テ之ヲ提出スルノ要ナキカ如シト雖談判上他ノ条項ニ累ヲ及ホササン限リ此様含ミ置キ於テ支那政府ヲシテ公認セシメ年来ノ懸案ヲ解決スルヲ利益ト存ス

大正五年八月三十日

関東都督男爵 中村是公

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

追伸御見書ノ陸軍大臣並参謀総長ヘモ提出仕置ク旨同申添ス

本書写北京ヲ使ス天総領事代理領事

関東都督府

5-0111

0503

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930115

別記

一、鄭家屯及四平街鄭家屯間ニ於テ我カ必要ト認ムル地点ニハ軍隊ヲ駐屯スルコトヲ公認セシムルコト

駐屯軍隊ノ為必要ト認ムル地点ニ兵営練兵場射撃場等ヲ設置スルニ付之ニ要スル敷地ハ官有地ハ無償ニテ提供シ民有地ハ其買入又ハ借入ニ関シ支那官憲ニ於テ斡旋スルコト

二、南満東蒙内ニ於テハ居留民保護ノ為必要ト認ムルトキハ我カ政府ハ何時如何ナル地点ニモ警察官ヲ配置スルヲ得ルコトヲ公認セシムルコト

三、四平街鄭家屯間ニ架設シタル電線ハ永久ニ之ヲ存置スルコト

四、今回ノ我カ死傷者ニ対シ支那官憲ヨリ相當ノ

吊慰金及慰藉金ヲ贈與セシムルコト

五、今回ノ事件ニ責任アル第廿七師並ニ第廿八師ノ団長以下関係軍人ヲ罷免責罰シ以テ謝罪ノ誠意ヲ表明セシムルコト

六、今回我ヲ軍隊ノ出動ニ関スル費用ヲ支那官憲ニ負担セシムルコト

七、南満及東蒙ニ於ケル支那軍隊及警察署ニハ我政府推薦スル教官ヲ聘用セシムルコト

5-0111
0504
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

95930116

秘受9551

大正五年九月四日 接受

警務課 第一課

民高警秘收第六一七三號ノ一

大正五年八月二十八日

関東都督府民政長官白仁武

外務次官幣原喜重郎殿

鄭家屯事件ニ関シ牛莊地方日支人感想ニ付別紙写之通報告ス、有之候間御参考迄及申報候也

関東都督府

5-0111

0505

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930117

寫

石高警秘收第一三七號ノ二

大正五年八月二十四日

藤田大石橋警務支署長

佐藤警務課長宛

鄭家屯事件ニ関スル牛莊地方日支人感想ノ件報告

鄭家屯事件發生以来海城縣下牛莊方面ノ支那官民ハ日本人ニ對シ甚敷輕蔑ノ態度ヲ増ス其ニ日本兵ハ到底支那兵ニ及ク又現ニ昨年日支交渉ノ際ノ如キモ日本ハ態ハ奉天迄出兵セシモ第二十七師及第二十八師ノ軍備ヲ見テ恐怖シ開戰ヲ見合ハセシ程ニシテ追テ在滿日本人ハ悉ク滿州全体ヨリ追拂ハルヘク又今回鄭家屯ニ於テモ日本ノ警察官及軍隊ハ惨殺セラレシニ反シ支那兵ニハ何等ノ損害ナシ等ト称シテ暗時ニ自国軍隊ノ強キヲ誇リ日本兵ノ弱キヲ嘲ルモノヽ如クナルカ一方在地方居住ノ本邦人ノ言フ處ニ依レハ從来在地支那官憲ハ屢々日本人ノ居宅ニ出入シテ直接間接ニ庇護シ来タリ家屋借入レノ際ノ如キハ家主ノ不承諾アルニモ不拘官憲自ラ安諾シ呉レシ程ナルニ昨年日支交渉後ニ於テハ家屋賃付ヲ拒ミ又ハ家主ヲ煽動シテ立退キヲ迫ラシメントスル有様ニシテ近来ハ家屋ノ借入レ方殆ント不可能トナリシノミナラス新條約モ亦殆ント空文ニ過キスシテ本邦人ノ受クル利益ト見ルヘキモノナク却テ直接間接ニ支那官民ノ妨害ヲ受クル有様ナリト云ヒ尚今回ノ鄭家屯事件ノ如キ若シ此候ニ蔭ル時ハ其ノ影響ハ忽チ滿州各地ニ及ヒ

關東都督府

5-0111

0506

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930118

支那軍隊巡警等ハ本邦人ヲ侮蔑シテ好害ヲ加フヘク
將来ノ發展上多大ノ障害ヲ來タス（キニ付此際当局者
ハ嚴重ナル措置ニ出テラレン事ヲ望ムト称シ居レリ

關東都督府

MT 514-44 872

5-0111

0507

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930119

大正五年九月四日 接受

警務局 第一課

秘受9560

右ハ第九二七號 九月三日 村

鄭家屯事件ノ成行演説會ニ關スル件

本日午後六時半分ヨリ神田區南明倶楽部ニ於テ當面ノ重催ニ係ル政談演説會ニ關シ警視廳四名ノ臨席ヲ求メ開ク聚約四百名、内訳ハ客月二十五日保護地請願軍隊ニ於ケル同會ノ決議文ヲ朗読セルモノ及其他大体去ル一日ノ報告ニ於ケルト同ク深キ感動ヲ与ヘタル様子ナリ午後十時四十分散会事閉

會セリ

決議文（別紙）

5-0111

0508

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一部

開會ノ辭　田鍋安之助

鄭家屯事件ハ歷代內閣ノ姑息ナル對支政策ノ必然ノ結果ヲ發ル居ルモノニシテ從來一ノ事件ニ際シ根本的ニ之ヲ解決シ置カザリシノ罪ナリ然ルニ今又之ヲ姑息裏ニ葬リ去ラントスル如キ大事件ヲ惹起スルヤキヲ保シ難シ以降宮ヲ滿鮮ノ地ニ於ケル警察權ヲ當極ニ將來ノ保障ヲ期シ得ベキ大急務ナリト云ヘリ

第二部　河野　己一
進ム滿鮮ヲ占領セヨ（大陸發展ヲ目ヲ）　高鍋　日錄
第三部　同上
支那救濟ノ經綸　警瓦　剛亮
第四部
政黨ト國論　同上
第五部　宮川　一貫
現滿ノ第三ノ國ヲ
第六部　小川　達平
日支和親ノ根柢

5-0111
0509
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930121

第七部

日本ノ天職

中島氣峰

（右就テハ別紙ノ如ク大岡山実ノ基礎ヲ固ムベシ）

終

被受 9580 號

大正五年九月四日 接受

參謀支第五三三號

大正五年九月四日 參謀總長

上海電報 九月三日午前一時五十分發 同時七時十分着

鄭家屯事件ニ関スル當地新聞ノ議論ハ昨今

著シク平静トナリ北京政府ハ特ニ各省ニ電致シテ

過激ナル輿論ノ沸騰ヲ防壓スル様訓令セリト

唐紹儀ハ西三日中南京ニ馮國璋ヲ訪ヒ意見

ヲ交換シタル後約一週後海路天津ニ赴クヲ告

蔡鍔ハ去ル二十九日當地着後獨逸病院ニ入

院當分此處ニテ療養シ病勢稍〻宜シキニ

至リ日本ニ静養スル筈ナリト

大正五年九月四日 接受 陸軍大臣 陸軍次官 参謀本部 軍務局 軍事課 陸軍省 政務局 第一課

5-0111

0510

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930122

第門 17 1

第六号ニ於テ日支両国ノ国境ニ関シ

昭和廿年月日 陸海軍

河湖巡査艇動ノ件

河湖巡査艇動ノ件

514-44 879

5-0111

0511

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930123

附屬書類添附

大正五年九月二日 接受

要目付了

秘受9493號

官秘ロ信 九八號 一

管人事課

大正五年八月二十八日

關東都督男爵中村覺

外務大臣子爵石井菊次郎殿

關東都督府巡査河瀬松太郎

右大正五年八月十三日在鄭家屯邦人ノ一人支那第二十八師兵ノ暴行ヲ受ケ負傷シタル事件ニ付其ノ不法行為ノ調査方交渉ノ為直ノ隊長ノ警察官ニ訪問シタル際歩哨等ハ銃器又ハ刀ヲ擬シテ之ヲ遮リ来意ヲ隊長ニ通セサルヲ以テ駐屯守備隊ノ援助ヲ求メ陸軍歩兵中尉松尾彦次以下二十三名擁護ノ下ニ再ビ往訪シタ

大正五年九月十八日 記錄第二部接受

關東都督府

ルニ支那兵ハ隊長トノ面會ヲ拒絶シ不意ニ我守備兵ニ對シテ射撃ヲ開始シ守備兵ノ一人銃弾ニ斃レ状勢急ナルヲ見ル凛然刀ヲ揮ヒ我守備兵ヲ射撃シタル支那兵ヲ殪シ守備兵ト共ニ防衛ニ奮励中遂ニ敵弾ニ中リテ重傷ヲ負フニ至リタルハ勇敢不撓職務ニ盡瘁シタルモノニシテ其ノ行動機宜ニ適シ勲労抜群警察官一般ノ亀鑑タル者ニ付特旨ヲ以テ大正五年八月十三日付相當叙勲ノ恩典ニ浴セシメラレン様御詮議相成度別紙履歴書相添此段及稟申候也

5-0111

0512

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930124

巡査身分明細表 一表

本籍	山口縣大津郡向津具村第千六十三番屋敷
身分	平民
寄留地	
官	巡査
氏名	河瀬松太郎
誕	明治三年十二月三十三日
辰	
實	
印	
認	
印	

實父	亀吉
實母	七
妻	
子	
養父	
養母	
養子	
祖父	
祖母	
同胞	姉 ミヨ子（他家ニ嫁ス） 姉 ツル（他家ニ嫁ス） 兄 菊雄（父ニ養ヒテス） 兄 熊市（分家ス） 兄 回藏 弟留市 弟正一
兵籍	豫備歩兵上等兵 大正四年三月三日豫備役滿期 大正三年三月三十日後備役滿期

年月日	學業及經歷
明治五年四月一日	山口縣大津郡向津具村立川尻尋常小學校入學
年月日	同校卒業
仝三十二年三月二十五日	山口縣大津郡向津具村立本郷特別學校入學
仝 年四月一日	同校高等科卒業
仝三十六年三月二十五日	家業ニ從事ス
仝三十七年三月一日	臺灣ノ歩兵第一聯隊ニ入隊
仝四十一年十二月三日	一等卒仝日上等兵ヲ命セラル
仝四十二年十二月一日	解隊
仝四十三年十一月十九日	善行證書ヲ受ク
仝 年仝月仝日	家業ニ從事ス
仝 年十二月五日	遭難救助ニ從事シタルニ依リ帝國水難救濟會山口支部長ヨリ賞ヲ受ク
仝四十四年八月十五日	
年月日	
大正二年十二月三日	鉄嶺領事館警察署（外勤）配置
仝 三年六月廿二日	刺道五級ニ列ス
仝 三年六月二十二日	柔道五級ニ列ス
仝 年七月十八日	詐偽犯濱本末松ヲ逮捕金五十錢
仝 年八月三十日	均庚出所外勤（當ノ時山城ヨリ駐在）
仝 年九月三十日	月俸十三圓給與
仝 年十二月三十一日	職務拾別勉勵ニ付金十五圓ヲ賞與ス
仝 四年三月四日	本署外勤（第六警區受持）
仝 年八月三十七日	鄭家屯派出所外勤
仝 年九月三十日	月俸十四圓給與
仝 年十二月三十一日	職務佑別勉勵ニ付金十圓賞與
仝 五年二月三日	精勤證書授與
年月日	精
年月日	
年月日	
年月日

急

930125

要再回

(要目付了)

機密

大正五年九月四日起草
大正八年九月五日附

機密送第九五號

主管 人事課長

主任

大正五年九月五日 發送濟

大正五年九月五日 接受

杉木 別紙

淨書 校正 清原

大臣

大隈 内閣總理大臣宛

関東都督府巡査河瀬松太郎

紋勳ノ件

大正五年九月十八日記錄第二部接受

外務省

関東都督府巡査 河瀬松太郎

紋勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度此段申進候也

關東都督府巡査河瀬松太郎紋勳ノ儀ニ付上申書送付ノ件

陸軍書ノ件

5-0111

0514

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930126

文書課長

大正五年九月四日起草
同年月日附

送第　號

主管　人事課長

主任

柚木

上奏案

関東都督府巡査　河瀬松太郎

右者大正五年八月十三日支那鄭家屯本支那人支那兵ノ暴行ヲ受ケ負傷シタル際

大正五年九月十八日記錄第二部接受

外務省

指揮

衛戍憲兵隊

ヲ以テ慰撫

ヲ以テ叙勲

ノ儀別紙写ノ通関東都督男爵中村覺ヨリ申立有之候間特ニ大正五年八月十三日付ヲ以テ頭書ノ通叙勲被仰出候様仕度此段謹テ奏上

大正五年九月五日

外務大臣子爵石井菊次郎

5-0111

0515

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

930127

第930127文

文書課長

大正五年九月十六日接受

大正五年九月十三日起草

同年九月十六日附

別紙

有附屬物

主管 人事課長

主任

発第一二五號

大正五年九月十六日發送濟

外務大臣

特命全權公使
陸軍中將代理公使宛

中村関東都督府巡査 河瀬松太郎

右ノ者ニ対スル勲章

大正五年九月十八日記錄第一部接受

外務省

要目付子

勲八等白色桐葉章

関東都督府巡査 河瀬松太郎

右者本月二十八日附官秘乙第九八号ヲ以テ

紋勲御稟請ニ依リ致上奏置候處本年八月十三日附ヲ以テ頭書ノ通紋賜被仰

出候ニ付該勲章ハ別封小包郵便ヲ以テ及御送付候間轉達方可然御取計相成

度勲記ハ追テ下付相成次第可及御送付候此段申進候也

假記ハ本信ト同封茲ニ

浄書 坊校正 原浄

MT 514-44 889

MT 514-44 888

5-0111

0516

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/